せう。どのやうにちがつてゐたのでした。」と申ねて、地質の説明・河川の分布・海岸線の状態・気候・耕作の分布・産業分布・交通線・都邑の分布等の相異を挙げさせる。「そこで瀬戸内海方面を山陽地方、日本海方面を山陰地方といつてゐます。」と、このことを指示し、参考調査として、中国地方に於ける気温・降雨量の分布調査（例へば鳥取市と松江市の比較を中心）・人口分布地図・産業分布地図（中部地方の地図に出てゐるものを新大したもの）等を示して、明瞭に於ける地理的位置の相異を一覧瞭然ならしめ、何故にかうした地理的位置を尚理したか、其の理由探究の意欲を刺戟する。

○「それでは、中国地方の作業に移つてどんなことに着眼したらよいか。それを皆さんといつしよに考へませう。今迄でに調べたこと、教科書・地図を基として考へませう。各自同志で相談することはよい。」と指示して具体的に目的決定の仕事に入る。

(5)目的決定の着眼点と指導　どんなことに着眼すればよいか、児童の考へたことを発表させ、それを原案として次の事項を整理決定する。

一、中国山脈はどんな特徴があるか。

二、中国山脈は此の地方の地勢・気候・産業・交通にどんな影響を與へてゐるか。

三、気候は山陽地方と山陰地方ではどんな特色があるか——ちがひのある理由、これと産業との関係。

四、産業は山陽地方と山陰地方ではどんなちがひがあるか、山陽地方の産業が発達してゐる理由。

五、中国地方に牧畜として牛の多い理由。

六、山陽方面の主な都邑地と都邑発達の発達した理由。

七、主な都邑地と港——瀬戸内海方面の交通の発達してゐる理由。

八、主な都邑と其の特色、山陽地方に都邑の多い理由。

九、山陽地方と山陰地方の比較。

十、中国地方の地理として、其の特色はどんな所にあるか。

大綱之等の事項を決定したならば、仕事の設定をなす。即ち地勢と気候(二時)・産業(二時)・都邑・交通(二時)・直接(一時)として之を児童に指示する。かくして第一時を終る。終る時に、次の時間までに中国地方の地図を地理ノートに整理用意しておくことを注意する。

研究

一、目的決定の第四時と地理的研究の用意指導　児童は各自のノートに中国地方の白地図を用意してゐる。今日は、先づ皆さんのノートに中国地方の地勢図と自由に作業して貰ひますが、此の前の時間に、地勢に就いてどんな事を調べることが決定してゐましたか（それを黒板に書せも。これを目的の第四時といつてゐる）、それをよく考へて、どんなことを地図に入れたらよいかを考へて作業して下さい。」

児童は地理書附図と地理書の挿図とによつて、色鉛筆を以て自由に作業する。教師はそれを一々指導して歩く。

児童の自由作業が終つたら（此の間五分）、どんな事項を本地方の地勢図として書入れたかを検討する。先づ発表させて見る。

「皆さんはどんなことを書入れたか、それを挙げてごらんなさい」。かくして此の地方の地勢圖作業として必要なる事項を檢覈する。

一、中國山脈――高原狀であること。

二、白山火山脈――大山（一七一三米）、三瓶山

三、川と平野――

瀬戸内海方面……吉井川・旭川・川上川と岡山平野・大田川と廣島平野。其の他の海岸平野

日本海方面……江川・斐伯平野と河川（兒童の附圖には斐伊川も、飯門川も名稱が出てゐないから、川の所在丈けを入れればよい）。益江・米子の平野・鳥取の平野

四、主な港――

瀬戸内海方面……下關・宇品・呉・糸崎・尾道

日本海方面……萩・鳥取・境

二、地勢の概觀　兒童の作業せる概圖を基調として、教師は黒板に時地圖中心で指導する。其の事項は凡そ次の如くである。

(1)中國山脈　「皆さんは作業して、中國地方の地勢としてどんなことがわかりましたか。」とたづねて、全體が高原狀をなし、山陰地方と山陽地方とでは其の勢のちがつてゐること―地質・河川・平野の分布・海岸の出入狀態のことを發表させる。

かくしてから中國山脈に就いて、(イ)東西に延亘する低山性のものであること、(ロ)平均高度は一千米内外に過ぎず、中國山地は高原狀をなすこと、(ハ)山脈が東西に略ぼ同じ高度を以て延亘してゐるから、本地方を南北の兩斜面に劃し、山陰と山陽の區劃を立てゝゐること、(ニ)南北の兩斜面を劃するから、河川は之を南北に流せしめ、從つて其の流長を著しく相異してゐること、(ホ)山陰と山陽南北の交通を阻碍することが多く、中國山脈を橫斷する伯耆路・山口街道等の開通がおくれたこと、(ヘ)山陰と山陽での氣候の狀態が著しく異つてゐること、(ト)從つて山陰と山陽とでは産業の發達、部落の分布、文化の開發がちがつてゐることを會得させる。

(2)西南火山脈　「中國地方にはどんな火山がありますか。」とたづねて、白山と三瓶山を挙げさせる。日本海方面の温泉の分布に就いても讀取らせるとよいのであるが、難しいかな、兒童の地質教科圖には一つも出てゐないから止むを得ない。かくして白山火山脈の所在をたづね、其の過つてゐる所を地質教科圖で讀取らせる。

また地質教科書で大山の俯瞰富士、又は出雲富士といはれ、中國第一の名山と呼ばれる所以、其の秀麗さ、廣大な裾野を見て樂を指導する。三瓶山が其の山頂が男・女・子・孫等の峰峰に分れてゐること、孫三瓶の麓に近く炭酸瓦斯を噴出して、所謂鳥地獄をなすことを簡單に附說する。

(3)瀬戸内海方面の河川・平野・港灣　「瀬戸内海方面の川・平野の主なるものをあげてごらんなさい。」とたづねて次のことを指導する。

一、吉井川・旭川・川上川の流域と岡山平野―中國第一の平野・米作・畑作の外、園の栽培も多い（産業分布地圖を參照して指導する）

牛の飼育も多い。兒島半島の干拓事業のこと。

二、徐山盆地—吉井川の上流。

三、盆川流域の平野。

四、大田川と廣島平野—廣島市は大田川の三角洲上に發達せるものであること。

五、三次盆地—西川（可愛川・馬洗川・西城川・神の瀬川等の江川の支流が集合する所に出來たもの）、北部圏に屬するが、南部圏に類似點が多い。

六、筑後川　七、山口盆地—盆野谷によつて盆地が通じてゐる。

八、瀬戸内海沿岸「瀬戸内海といふのはどれだけの範圍ですか、またこの海岸としてどんな特色がありますか。」とたづぬ、其の主な半島・島・海峡を挙げさせる。また数多出入の範圍（瀬戸内海沿岸地帶と海水の作用）を指摘する。

九、日本海方面の河川・平野・海岸「日本海方面の川・平野の主なるものはどれでせう。」とたづぬて、次のことを指摘する。

一、江川—中國第一の大川であるが、沿岸平野にとぼしい。

二、松江低地帶の川・平野—神門川・斐伊川等の三角洲及び宍道湖の沿岸、竹島平野（地溝平野）・宍道湖（陥没湖）、山陰のジュ・キープ・中海のこと。

三、倉吉平野と天神川。

四、鳥取平野と千代川。

五、日本海岸—鳥取砂丘湖であり、海岸が未だ多い。隠岐島（略）。

第二編

中國山脈が其の地勢に與へる影響を考察する。（試驗の具體的指導要項を指導する）

第十節　比較地理　南北朝四國の指導實例

一　指導の要旨

一、四國地方の指導が終つた後に於て、南北朝四國の比較作業をなすのである。比較地理作業といへば、兒童は既に地形地方に於て、京畿地方・北陸地方及び中央山地の三地方に於ける比較、近畿地方に於て北部山地・中央部低地・南部山地の比較、最近に於ては中國地方に於ける山陽地方と山陰地方の比較地理作業をなしてゐる。

從つて四國地方に於いて南北朝四國の比較地理作業型例と其の心得はわかつてゐる筈である。

されば、南北朝四國の比較地理作業として、どんな所へ着眼して作業すればよいかの目的決定をなさしめ、南北朝四國の地理的景觀の優劣を比較すると共に、本地方地理の優拙が出來るやうにする。

換言すれば、南北朝四國の比較地理によつて、本地方の優拙をたなすのである。其の間に地人相關の考察的來歴をなし、更に進んで瀬戸内海に關した山陽地方と北國とは、其の地理的景觀に於て類似してゐる點の多いことを挙げて、瀬戸内海地帶と類する特色ある地域の存在する事を指導するのである。

二、南北南國國の比較作業のみによつては、國國地方全體の復習をなすに、支障を來す所もあるので、教師の指導によつて比較地理以外のことも取扱ふものである。

三、勉定時間は一時間であるから、地圖を描いたり、圖表を作製したりする時間作業をなす暇はないので（元もそれ等は今までの時間に作製）、寧ろ兒童の目的性に依る時間作業となすのである。目的決定はグループの共同作業となす。

四、吉野川平野は之を北國國に入れるか、それとも南四國とすべきかは、其の自然及び人文景觀からして給ふ所であるが、茲では南國國として取扱つておく。

五、作業地圖は兒童の目的性に立脚するはいふまでもないが、復習部分作業は教師が兒童に働きかける所が多くあるのが普通である。

二　指導過程

一、復習部分と豫習　地圖の前時間に於て、次の時間には國國地方の復習をなすべきことと兒童と共に勉定し、どんな方法で比較することが、最も適當であるか、各自それ〴〵案を考へておくべきことを申合しておく。また作業の能率川となす爲に、國國地方の白地圖をノートに作製させておく。勉定した地圖の時間になれば、「今日は此の前の時間に皆さんと約束した通りに國國地方の復習をします。」といつて教材を指示する。

二、目的案の決定　次に「どんな方法で復習すればよいか、皆さんはそれに就いて考へて來ましたか。」といつて兒童の意見を聴取する。

皆く時間を與へて各自考へて來た後に就いて語り合ふやうにする。然る後、教師は「どんな仕方で復習すればよいか、皆さんの考へをたづねてみよう。」といつて、兒童の案を發表させる。

兒童は或は地圖帳にあるやうに、「區域・地勢・氣候・交通・都邑の順序に復習するがよいとなす者もあるであらうし、或は國國山脈がこの地方にどんな影響を與へてゐるかを調べるがよいといふ考へを出す者があるかも知れぬ。或は中國地方の所で調べたやうに、南國國と北國國とに分けて其の比較をなすがよいといふ意見を出す者があるかも知れぬ。

更に角、之等の案が出れば、それ等に就いてどの考へによつて復習するがよいかを考へさせて、「北國國と南國國とに分けて復習することにしよう。」と決定し、なぜ然でさうするのがよいのかを考へさせる。それには次のやうにする。

○「北國國と南國國は何所で區分したらよいだらう。」――國國山脈を境として、大體瀬戸内海方面を北四國、太平洋方面を南四國とする。

○「吉野川平野はどちらへ入れたらよいだらう。」――五年の今頃になると、相當な理由を附けて、北國國に入れたいとなす者、南國國にしたいと主張する者等があるのであるが、茲では南國國に入れておく（元もこんな問題はでんる筈）。

○「南四國と北四國とを比べて、地圖上に現はれた特長をみませう。」――平野・河川の分布・海岸線の出入・港灣・都邑の分布等に就いて個別に發表させればよい。

○「今地図をみたやうに、南四国と北四国とでは違つてゐる所があるでせう。それですから、故では南北両四国を比較することによつて復習してみませう。それは中国地方で、山陽地方と山陰地方とに分けて比較したのと同じです。」

○「それではどんな所へ着眼して、南北両四国を比較したらよいか、それを考へやうではありませんか。」——かうして愈々具体的に、児童の目的性を決定するのである。グループ研究の作業となすがよい。凡そ五分位の時間を與へた後、其の結果を發表させて整理するのである。

一、北四国と南四国は地勢にどんなちがひがあるか。

二、北四国に雨の少いわけと、之が産業に與へる影響。

三、北四国はなぜ南四国に比べて開けてゐるか——交通・都邑・産業等。

四、四国山脈は南北両四国の地理にどんな影響を與へてゐるか。

五、北四国の瀬戸内海方面と、山陽地方の瀬戸内海方面の地理とでは、どんな所が似てゐるか。

之等は児童が發見した問題そのまゝでなく、教師が児童の考へを補成し、整理して決定するものである。

山陽方面と北四国の地理的意識を比較して、故に瀬戸内地帯の地理として総括するのであるが、初級児童のことであるから、そんな所へ気のつく筈がないのであるから、教師の方で指導して整調させるのである。而して中国地方と四国地方とを一地方となす地理的取元諸方の主張にも合致するやうになすのである。

五、比較の學習

○「先づ地勢に就いて比べてみませう。北四国と南四国の地勢を比べる前に、四国地方の地勢に就いて、注意すべき所を發表して貰ひませう。」——四国山脈の位置、山勢の急峻なこと（石鎚山・剣山）、山勢の緩な讃岐山脈、阿讃山脈・吉野川と其の平野・仁淀川と其の平野・讃岐平野・松山平野の分布・海岸の主な出入等に就いて。

○「北四国と南四国の地勢ではどんな所が違つてゐますか。」——南四国の平野には吉野川流域平野と高知平野があるが、北四国には讃岐平野と松山平野がある。北四国には南四国を流れる吉野川・仁淀川・四萬十川のやうな大きな川はなく、また南四国の方が山地が多い。海岸の出入、島嶼の分布が違つてゐる（其の主なものをあげさせる）。

○「気候はどう違つてゐるか、それを考へてみませう。」——地理附図第二図によつて、南四国は北四国に比して高温（[illegible]）多雨（[illegible]）であることを知らせる。地理附図の気候図以外に、参考となる気候図表があれば、児童が之等に就いて作業するものがあれば、和為それを利用して發表させる。

○「なぜ北四国と南四国とでは気候がそのやうに違つてゐるか、其の理由に就いて考へませう。」——気温の分布に就いては南四国の位置と日本海流との關係、雨量の分布に就いては、夏季に於ける南東季節風と日本海流・四国山脈・紀伊山脈との關係、冬季の北西季節風と對馬海流・中国山脈との關係等。

○「そんなわけで北四国は中国地方の山陽に似た気候になつてゐるわけですね。それならば、更に故で考へたいことがあります。それは北四国の雨の少いといふことは、北四国の産業にどんな影響を與へてゐますか。」——讃岐平野の農業、讃岐平野では米作の灌漑に用水池を築造してゐること等（例へば満濃池のやうに）。

○「北四國の都會地といふと、どん全所がありますか。」――坂出（ここが）・丸亀・高松・高知等。

○「それならば南四國の産業、多分は農業にどんな影響と與へてゐますか。」――山地の多い地勢と相俟つて農林地を多くし、林業を盛んならしめ、柳・杉・檜・松・樅等の美林が多い。其の副産物としての木炭・薪等・松脂等及び紙類がある。高知平野の一部に見る米の二期作も、一は南國の自然性に帰る（人間の努力にも帰ること）。柑・三柑の栽培から土佐半紙の製造。

○「北四國と南四國の気候の相違は、地勢と共に農業の産業に影響を與へてゐることは今考へた通りであるが、其の外に四國地方にはどん全農業があるか、それに続いて考へませう。」――北四國では坂出市を中心とする塩田・今治の綿織物・瀬戸の陶山と窯業の製造所、南四國では吉野川流域平野の蔬菜・畑作平、徳島市を中心とする藍製物、木炭業として瀬戸内海方面のたひ（鯛）・いわし・さはら・たひ（鯛）、太平洋方面のまぐろ・かつを、高知のかつをよし等。

○「次に南北四國の都邑・交通の發達に続いて考へませう。人口は何所に多いか、どんな都邑があるか、主な鐵道・主な路は何所か。」――瀬戸内海沿岸は人口密度が大で、南四國の太平洋方面及び中央山地が稀薄である。讃岐平野・今治盆地・松山平野・吉野川平野が稠密である。香川縣では高松市・丸亀市・坂出・多度津、愛媛縣では今治市・松山市・宇和島市・三津浜・大洲等があり、徳島縣では徳島市・鳴門・小松島・池田、高知縣では高知市・安芸・須崎等がある。

以上交通では北四國の産業本位・之と密接する都邑、南四國で高知縣、海上交通では瀬戸内海方面の高松・多度津・今治・高知等、南四國では小松島・阿波・海部等がある。

○「北四國・南四國の交通・都邑の發達を比べると、共に北四國に進んだことがわかつた。さうすると、未だ南北四國間を結ぶ鐵道が開通せず、所謂に鐵路の發達してゐるのはどんなわけだと考へますか。」――東西に横走する四國山脈が内陸交通に及ぼす影響が大である。海上交通は四國沿岸の自然的影響と、瀬戸内海に面する風景とで、北四國は發達し、南四國は微して不振である。

○「それならば、今物さんがあげた都邑に続いて、それ等の都邑はどんな特色があるかを吟味しようではありませんか。」――其の考察を北四國と南四國の二區に分ち、高松市ならば香川縣下のある所、交通・商業の都市で、四國と中國との連絡上一番近い所にあり、水陸共に交通が便利、商業が盛んである。

坂出ならば製鹽業の中心地で、商工業が盛んで市勢が開る發達してゐる。大體この程度で其の他の主要都市の特色を吟味するのである。

○「さうすると、これで一通り南北四國の地理の比較が終つたから、其のちがひをノートに整理しようではありませんか。」――纏め用意しておいた四國地方の白地圖に地圖中心に簡單に發表させる。即ち白地圖に四國山脈・讃岐山脈・阿波大山脈の吉野川・仁淀川・四万十川等の所在、主な平野の分布を示し、北四國には河川の少いことを「河少い」と記入し、又南四國には「流度高く、河が多い」等と書き入れて行く。それに關聯して坂出のあたりに「製鹽業」と書き、南四國には「林業・ふうぞ・みつまた」と入れる。鐵道の主なものと、主な都邑・港灣とを入れる。

かくして南北四國の地理の相違が一目してわかるやうにするのであるが、其の時間は五分乃至十分と決定した い。

○「なぜ北國圖が瀬戸圖より開けてゐるでせうか、其の原因を考へませう。」――瀬戸内海に面する位置、氣候・山岳地方に近い位置から。

○「それでは次に擧つた二つの問題に就いて考へませう。それはどんな問題でしたか。」

一、瀬戸山脈は此の地方にどんな影響を與へてゐるか。

二、北國圖の瀬戸内海方面は、中國地方の瀬戸内海方面とどんな所が似てゐるかといふことでした。先づ瀬戸山脈の瀬戸から考へませう。」

一、瀬戸山脈が低く、此中國地に及ぼす影響。

二、海岸に及ぼす影響――砂浜・海岸等。

三、交通に及ぼす影響――本州南北の連絡瀬戸地方、當時の交通は陸路よりも自動車交通が進んでゐる。

○「次に北國圖の瀬戸内海方面と中國地方の瀬戸内海方面に就いて考へませう。」

一、地勢・交通――海岸の出入、港灣の多いこと、漁獲が多く、漁業が發達してゐること（なぜ）（みずゴロゼ）。

二、氣候――内地の瀬戸地帶であること。

三、産業――漁業（なぜ漁業か）・農業・工業が一般に發達してゐる。

四、交通・都邑――人口が密集で都邑が多い、特殊産物の割合に人口が多いから、農業でも集約的である。家内工業が發達してゐる。

岡山平野・倉敷平野の農業實況、倉敷平野の氣象、陸上の交通と海上交通が發達し、瀬地方の間には W 字形の鉄道網が開けてゐる。

○「このやうに中國地方と北國地方の瀬戸内海に面してゐる地方は、其の地理がよく似てゐるので、「瀬戸内地帶」と呼ばれてゐる。一方は中國地方、一方は北國地方で皆さんは別々に調べたのであるが、このやうに相地方の似てゐる所に注目することは地理の作業として大切なことである。」

第十一節　目的決定　丸州地方第一次作業の實踐

一　指導の順序

並にい上第一次指導とは、教材を指示し、見學の注意點を指示し、地理教科書（特に挿圖）・地圖を利用して、九州地方の全體性取扱をなし、目的決定をなす指導の意味である。

本地方の指導に凡そ十三時を配當し、毎時の指定は次の如くである。

第一・二時　目的決定の指導

第三・四時　地勢の指導（陸・中・海九）

第五・六・七時　氣候及び北九州の産業・交通・都邑

第　八　時　中九州の産業・交通・都邑

第　九　時　南九州の産業・交通・都邑

第十時　郷土区の産業・生活・都市

第十一時　本地方の産業・交通の大觀性指導

第十二・十三時　概觀作業

指導過程の大觀は、地理學の組織に依るが、其の最初は本地方の全體性の取扱をたし、目的決定を指導し、次に大觀北・中・南九州及び郷土区の中地理的單元を採用して指導するものである。

かゝる取扱をして、産業と交通は大觀的に指導し、本地方としての産業の特色、交通系として纏め、最後に本地方の觀察作業をなすものである。

二　指導過程

【第一時指導】

一、教材提示と目的決　地理の時間に「此の次には九州地方を調べるが、九州地方に就いて、皆さんはどんなことを知つてゐるか、また我が郷土とどんな關係があるかを考へておかうではありませんか。」と提示して、心の準備をなさせる。

地理の時間になれば「今日から、皆さんと勉强したやうに、九州地方に就いて調べますが、それに就いて、皆さんとどんな約束をしておきましたか。」と、尋ねて次の仕事に入る。

二、郷土の觀察

1　郷土觀察　「九州地方といふのは、どれだけの範圍ですか。」をたゞねて、地理書附圖を讀取らせる。

「行政上の區劃はどうなつてゐますか。」を問うて、地圖を讀取らせ、兒童の父兄の出身地の發表をなす。

2　地圖　「九州地方の位置を決定する時、どのやうに考へたらよいだらうか。」と兒童に働きかけ、本地方の位置を——我が國全體から眺た位置、其の周圍の海洋・陸地、郷土からの位置、郷土から九州に至る交通路等に就いて考へさせる。

次に九州地方の區劃は、鹿兒島地方や中部地方の約三分の二に當つてゐることを附加しておく。

3　住民觀察の指導

一、教材知識の發表と發展　「それでは、此の前、皆さんと約束した通り、九州地方に就いて、皆さんの知つてゐることを發表して貰ひます。」といつて、教材知識の發表を聞く。

例へば兒童は、阿蘇の大火山、別府の溫泉郷、櫻島大山の噴煙、耶馬渓の奇觀、雲仙岳の風光、宇佐八幡宮、太宰府神社、博多灣の防衛、櫻島山の高千穂、八幡の製鐵所、佐世保軍港、佐賀關製鐵所、筑豐炭田・三池炭田・三池港の水閘式鐵船等の地理的・歴史的事物を挙げるに相異ない。また其の他にくだらないものを挙げて來るから、此に整理する必要がある。

「今、皆さんの發表になつたことで、これから九州の作業に關係のないこと、つまり知つてゐなくてもよいといふことはありませんか。」と反省を促して整理するのである。

また、それと反對に「今、發表されたことで、九州地理作業に必要なことはどんなことでせう。」といつて吟味させ

るのである。

二、郷土との生活關係の吟味　この問題は兒童にむづかしいことであり、既得知識の發表と直觀する樂ひがないわけではないが、作業地理としては重要な一要素であるから、考へさせて見ることが有效である。

「九州地方と我が郷土との關係で、始終た竹林が見出されましたか。」とたづねて見る。室内を郷土として考へた時、九州製（石炭）、大島綿、長崎港の水産物、博多人形、有田焼等が來てゐることは、兒童の經驗を通して、また百貨店等の陳列によつて知ることが出來る。兒童の父兄の出身郷が本地方に分布してゐる場合には、この事柄で其の關係が考察される。

4　地理學と地理教育の實際　「どんな樣子が出てゐるか。それを見ませう。多分地圖といつしよに見て、其の位置を確めませう。其の樣子でどんなことがわかるかに注意しませう。」と指導する。

「河岸と段丘」「河岸は何で名高いか、ここを通つてゐる大山線は何といふか。」をたづね、阿蘇大山線に屬する大山であることを發表させる。

「阿蘇山及び阿蘇山の噴煙の噴圖」　此の場合噴圖を詳しく調ませなくてよい。地理教授圖の眺大地圖「阿蘇山」と對照して、高岳が一五九六二米で最高峰、黑川・阿蘇谷・南郷谷・白川・中央火口丘の五箇の位置を調査らせる。阿蘇山の樣子は中央に見える最高峰が高岳、高岳の右に見えるが中岳で、今噴煙してゐることを注意する。

「筑後川」―全流なことを思はせればよい。人吉以下五十餘粁を下るに五、六時間で足りるが、洪水には三日を要することを附加する（筑後の洪水に就いて注意する）。

5　地理教授と發表　地理教授圖に就いて、發表をさせるのである。地理教授の基礎に對する發表よりも、發表を先にしたいのであるが、地理教授圖が餘りに第一的であるから、發表を指導する意味において、地理の基礎の次にこれを取扱ふのである。

「地圖に就いて、皆さんのわかつたことを發表して貰ひますが、地理教授圖の外、地理書の地勢圖もよく讀ることにしませう。」と注意して、次の事項を取扱ふのである。

○「先づ九州地方の地圖と讀て、皆さんの一番に氣のつくことはどんなことでせう。」――兒童は御採用の教授してあることを發表する。

○「それならば、どんな平地・野・島があるか、それをあげなさい。」と尋ねて、其の主なるものだけをあげさせる。

○「九州の地勢で、其の他に特色と思はれることはありませんか。」と考へさせて、山地・火山・温泉のあいことを挙げさせる。

○「それでは、どんな山脈・火山脈がありますか。」と問ひ、筑紫山脈・九州山脈・白山火山脈・阿蘇火山脈・霧島火山脈を地理教授圖に就いて發表させる。

○「筑紫山脈と九州山脈では、どんな所が違つてゐるか、地圖でわかりますか。それはどんなことでせう。」と考へさせて、山脈の連續の具合・高度等を比較させる。それが爲には地圖の外、地理教授圖、地勢の眺大圖も利用する。

○「それでは、どんな川・平野があるか、其の主なるものだけを挙げてみませう。」と問いて、筑後川と筑紫平野。

白川・緑川と熊本平野・大淀川と宮崎平野、其の他の主な平野を挙げさせる。

○「次に、其の外に皆さんの氣の付いたことはどんなことですか。――都邑や鉄道の分布はどうですか。」と促して、北九州に都邑・鉄道の分布の多いこと、東九州よりも、西九州に多いことを讀取らせ、其の主な都邑を挙げさせる。

○「地理書附圖『本邦鉄道・電信線圖』によつて、どんなことがわかるか。」をたづねて、南九州が孤立であるはいふまでもなく、鉄道の多いことを讀取らせる。

なぜ南九州に鉄道が多いかといふ地理的理由は、此の場合攻撃はなくてよいが、其の理由探究の態度は起させなくてはならぬ。

○「それでは、地理書附圖『九州地方主要鑛産地』では、どんなことがわかりますか。」を求めて、石炭・金・銅の鑛産と産地とを讀取らせる。

○「次にこんなことを考へやうではありませんか。地理書の地圖と、主要鑛産地圖とを比べて見ると、そこに何か見出されることがありませんか。」といつて、兒童の考へを促すのであるが、或は兒童として運命が出來ないかも知れぬ。つまり筑紫山脈に炭田、九州山脈に金銅鑛山のあることを讀取らせるのである。

○「今までに、皆さんが地圖を眺た處で、薩南諸島や琉球列島は別として、九州島に就いて考へてみた時に、之を三つに區分することが出來るが、どのやうに區分するか、それを考へて下さい。」といひ、鉛筆で、相談させる。かくして北九州・中九州・南九州の三區ある事に着眼させるのである。

○「九州地方の調べ方は、今も考へたやうに、九州島は北九州・中九州・南九州とし、地理書にもあるやうに、別に薩南諸島と琉球列島とを一區としようではありませんか。」といつて、調べ方（作業）の大方針を決定するのである。

【第二時（實際）】（二時間の予定の内の作業）

一、どん金地形で「地勢と氣候は九州島全體として調べ、産業・交通・都邑は、此の前に考へたやうに、北九州・中九州・南九州として調べ、別に薩南諸島・琉球列島の地理を調べませう。あとで、産業と交通とを調べませう。さうすると、地勢のどんな所、氣候のどんな所、北九州・中九州・南九州のどんな地理に就いて作業すればよいかをグループで考へませう。

二、共同作業　グループの共同作業として考へさせ、其の結果を發表させ、黒板すべき材料を整理する。

三、個別發表　兒童の發表を調べて次のやうになす。

1　地勢・氣候

一、北・中・南九州をつくる主なる山脈と高山・大山脈と火山・温泉

二、筑紫山脈と九州山脈はどうちがふか（北・中・南九州の比較）

三、主な平野と河川

四、海岸の出入（地勢の）

五、北・中・南九州の降雨と氣温の分布

六、九州山脈が此の地方の氣候に與へる影響

2　北九州

一、北九州大工業地帯と筑豊炭田（福岡県）

二、三池炭田、其の他の炭田

三、筑豊平野の農業

四、郡山・文珠――北九州大工業地帯の郡山、福岡市・大牟田市と三池港・佐賀市・長崎市・佐世保市及び其の他、

鹿児島本線と長崎本線

3　中九州

一、熊本平野の農業、阿蘇山麓の牧畜

二、中九州の金鉱銅山と佐賀鉱の製錬所

三、郡山・文珠――熊本市・大分市・別府市其の他、鹿児島本線と日豊本線・豊肥線

4　南九州

一、日向耕作平野の農業　鹿児島の農業――さつまいも・蔬菜栽

二、九州山地の林業・鉱業（金鉱）・霧島山麓の牧畜

三、郡山・文珠――鹿児島市・宮崎市・都城市及び其の他、鹿児島本線・日豊本線・肥薩線

水産業は本地方全體として調べることとなす。

第十二節　九州地方産業・交通の大觀性指導實驗

一　指導の精神

茲にいふ大觀とは、啻にいふ大ざつぱといふのではない。前述した九州地方指導の計畫に述べたやうに、九州本島は、地方調査元の下に、中地區區、即ち北九州・中九州・南九州の三單元を採つて指導し、第十一時において、本地方の産業・交通の大觀性指導をなすのである。

つまり紙利（第一表）に本地方の全體性指導をなし、次に中地區區に分けて、主として其の地區區における産業・交通・都邑を指導したのであるから、茲に再び九州地方全體性の立場から、九州地方の産業及び交通を指導し、本地方の産業・交通としての特色たり、大勢たりをしつかりと掴ませるといふのが、本指導の眼目なのである。

二　指導過程

一、教材研究と設計　「地理の時間において、九州地方を調べる時に、設定をたてたやうに、此の次には九州地方全體としての産業と交通に就いて調べます。それに就いては、どんな所へ旅行して調べたらよいかを、今までに調べたことによつて、考へて貰ふつもりはありませんか。」といふ調子に發言するのである。

實際の地理時間になれば、特さんといつしよに設定したやうに、今日は九州地方の産業と交通を調べます。さあ、

どんな所へ旅行したらよいか、それに就いて考へさせう。」といつて、グループの活動に入るのである。

二、目的決定の取扱ひ　グループに分けて、各自の意見を基として、グループ内にて意見の交換をさせ、其の後或一グループの代表者見を發表させ、大體次のことに着眼させる。尤も之は本地方旅行の最初において、目的決定をさせてゐるのだから、この場合にはさう多くの時間を要せずに済むのみならず、前に決定したことが出て來るから、「目的決定の再吟味」としたのである。

1　鹿　園

一、主要鹿産地―本・壱・さつまいも・茶葉・栗・蜜柑

二、主要鹿産地―筑紫平野・熊本平野・日向海岸平野、其の他

三、本地方の地勢・氣候との關係

2　牧　畜

一、鹿兒島・熊本縣の馬

二、鹿兒島・長崎・大分・熊本縣の牛

三、沖縄・鹿兒島縣の豚

3　林　業

一、地勢・氣候（九州）との關係

二、宮崎・鹿兒島・大分縣の林業

4　鹿　業

一、北九州の石炭

二、中・南九州の金屬鑛山と佐賀縣の製鉄所

5　工　業

一、北九州の大工業地帯―大工業地帯發達の原因

二、其の他の工業―福岡・久留米の絹織物・佐賀・長崎の陶器・有田・大牟田の工業・熊本の肥料等

6　水産業

一、主な水産業地帯と水産業發達

二、本地方が水産業に恵まれてゐる理由

7　農業の特徴―北・中・南九州における農業の特色と地勢・氣候との關係

8　陸上交通

一、陸上交通と位置・地勢との關係

二、鹿兒島―鹿兒島本線・長崎本線・日豊本線

三、福岡線―豊肥本線・久大線・肥薩線

四、北九州に發達せる理由

9　海上交通

一、北九州の長所―門司・若松・長崎等

二、北九州に隣接する諸地

第一、[illegible]

【第一節】

1　地勢

一、九州地方で、主な農業地は、筑紫の平野及び日向部落平野其の他の平野、盆地であることは、目的決定において挙げてあるから、それを故で再説説させ、次の特色を指摘する。

（イ）北九州は概して水田多く、南九州は畑作多く中九州は両者の中間性である。

（ロ）従つて北九州は、米・菜種・麦等に、中九州は米・菜等に、南九州は米・菜等に農業を有すること―以上のことから、地勢・気候との関係を考察する。

（ハ）本地方の農作物中、他地方に誇るものは、麦・さつまいも・菜種・蚕・七島藺等であること。

二、[illegible]農業物　米―其の面積約一七〇〇万ヘクトリットル（約九三〇〇万石）は内地総面積の約一五％に當ること、[illegible]の水田反別は[illegible]に次いで多いこと（[illegible]約四二〇万ヘクトリットル）本地方産の米として筑後米・肥後米の優良米があること、熊本[illegible]の米は其の産額に於て[illegible]に及ばないが（[illegible]約七五％）、質において優つてゐる。麦―米に次ぐ重要農作物で、主として米と共に二毛作として栽培されてゐること。一般に気候の関係で、裸麦と小麦が多く、大麦は殆んど栽培されないこと。本地方の裸麦産は内地総産の約三割％を占め、第一位にあること。熊本平野の裸麦は全国第一位である（[illegible]約二万ヘクトリットル）。蚕―中・南九州に多く、本地方の蚕産は内地総産の約六割％を占める。鹿児島県が第一位、熊本県が第二位で、[illegible]せる大山性の蚕地に適してゐること。

さつまいも―鹿児島・宮崎県と最多とし、長崎・熊本の二県がそれに次いで多く、本地方のさつまいもの産額は、内地総産の約半（五〇％）を占め、南部住民の常食として重きをなし、また酒精・澱粉等の原料として利用されてゐること。

菜種―北九州、殊に筑後平野の米作の裏作として栽培されること、九州地方の菜種産額は我が国第一で、総額の約半（五〇％）を占めてゐること。菜種は換金用として本地方の重要作物の一をなしてゐること。

蔺―北九州において、伝統的特産地の観あること、本地方の生産額は我が国第一位（総産の約七六％を占める）。筑中筑南筑後は本地方の半を占め、長崎・熊本・大分及び佐賀の諸県がこれに次いでゐること。蔺は其の茎から畳表をとる工業用作物であること。

七島藺―大分県の国東半島から別府湾に亘る地方が主産地であること、七島藺は医薬的・実用的な畳表の原料となること。

2　牧畜

一、牧畜として、どんな牧畜が何所に飼養されてゐるかを表示させ、次の事項を指摘する。

二、主な牧畜

馬―本地方の馬頭数は内地総頭数の約二三％で、鹿児島県の馬（約八割）は、北海

原・筑手・福島に次いで多く、本地方では熊本・宮崎縣が多いこと。霧島大山の麓野・阿蘇山の大口原に好牧場がある。自然性牧草地（火山の噴出物で、牧草に適する地帯の高原牧場）、島嶼牧場等の発達で、牧馬が盛んになつたこと。

中―本地方の中は、内地都道府縣の約三〇％を占め、中部地方よりも多いこと、鹿兒島縣の半（約一〇）は兵庫・鳥取を除き、第一位にあること。之に次いで長崎・大分・熊本の順縣に多いこと。

下―本地方は關東地方と共に、縣の面積が最も多いこと（内地面積の約三一％）。沖縄縣の縣は本地方全體の過半を占め、それに次いで鹿兒島縣に多いこと。

3　林業　どの地方に林業が盛んであるか、即ち九州山脈の山地であることを考察させ、地勢・氣候との關係を考へながら、次の事項を指導する。

九州山地は温暖であるから林産に富むこと、殊に南九州山地は、樹木の成長が速かであること、林野面積は宮崎縣が最も多く、鹿兒島・熊本・大分縣がこれに次ぐこと。大體九州山地は杉・檜・栂・椎等の樹種が經濟的に、重きをなすものであること。大分・宮崎縣では林産副産物として椎茸を栽培し、また本炭を製造すること。

4　鉱業　どんな鉱産が何所にあつたかを考認識させて、次の事項を指導する。

九州は石炭をはじめ、金・銀・銅等の鉱産が多いこと、殊に北九州の石炭と、南九州の貴金属は本邦鉱業中重きを為してゐること。石炭の鉱産は内地鉱産の約六五％を占めてゐること。石炭の主産地は筑豊炭田・三池炭田・唐津炭田・福岡附近・佐賀縣・長崎縣の炭田であること。

金・銀の鉱山は南九州では、鹿兒島縣の三井串木野・山ケ野・芹ケ野等、中九州では大分縣の鯛生・馬上等であること。本地方の金の産額は内地全産の約四四％を占めて第一位にあること。佐賀縣鉱産額所は金の外、銅をも多く産出することを考へ、次の事項を指導する。

5　工業　目的決定にあげたことを、ここで考認識させて、次の事項を指導する。

北九州地方の工産額は、九州全體の半ばに近く、本地方第一の生産額があり、之も北九州大工業地帯が發達してゐるためで、殆る九州地方の工業は餘り盛んでないこと。

（イ）北九州大工業地帯　門司市より西に連る小倉・戸畑・八幡・若松の都市を連ね、下關市より海峡の海岸から、西方到海の海岸に至る一帯の地域であること。あらゆる部門に屬する各種の工業が發達し、近代的一大綜合的工業地帯であること―製品の主なるものは鐵・セメント・砂糖をはじめ、機械類・製氷・肥料・硝子・瓦斯等であること、大工業地帯發達の地理的理由。

（ロ）紡織業　紡織の紡織（綿糸）・久留米の絣織のこと。

（ハ）其の他　有田の陶器（磁器）・長崎・佐世保の造船・熊本の肥料（硫安の地産アンモニヤ）・宮崎の肥料（延岡市の地産）・大分縣琉球表（畳表）（ゐい草）がある。

6　水産業　目的決定に於て考吟味した事項を發表させて、次の事項を指導する。

本地方が水産業に恵まれてゐる理由―太平洋沿岸に富み（漁場七千浬）、其の位置は日本海・東支那海・瀬戸内海等が太平洋と接する所にあり、殊に日本海方面から寒流性魚族と、太平洋方面の暖流性魚族との集合の場所に當り、且、近海は島嶼に富み、魚族の産卵・繁息に適するのみならず、好漁場の近くに、好漁港が發達し、水産業に好適の條

件を具備してゐること。

主な水産物―漁獲物の主なるものに、かつを・たひ・いわし・ぶり・いか・さば等あり、本地方漁獲高の約一五％で、北海道に次で、中部地方のそれと相伯仲してゐること。

其の分布は北九州の海に、たひ・さば・いわし・いか等が多く、日本海の特色に富み、いかは長崎縣に多く、南九州の海はかつを・まぐろ・ぶり等の如く、太平洋の特色を有つてゐること。

水産製造物には、鹿兒島のかつを節・まぐろ節、長崎縣のするめ等が著きをなし、本地方の水産製造物は北海道、中部地方に次いで第三位にあること。

本地方において、最大の産業をあげる農産は、中國の下國で、新興の若松はそれに次いでゐる。消費地へ輸送出の位置を占めてゐるからである。

以上の取扱をして、次に交通の説明に入る。交通に關する目的決定を再認識させて、次の説明をなす。説明すべき要項だけをあげてみる。

【交　通】

一、陸上交通

1　位置・地形との關係　交通網の發達は、北九州に最も著で、南九州に隙である。これ北九州は日本の交通交叉点たり、交通來路ともなるべき好位置を占めてゐるのに、南九州は其の位置が偏在し、地方的孤境に置かれてゐるからであること。

東西横斷鐵道は海岸線に對して丁字鐵道を形成して、内陸へ向つてゐるが、九州山地に防げられて最近全線したものは、豊肥線・肥薩線と久大線の三線であること、九州山脈が陸上交通に及ぼす影響が大で、東西交通の分野を劃してゐること。

2　一周線と放射線　諸鐵道の形狀は鹿門を根幹とする樹枝狀をなし、大隅半島形に從つて三大幹線―鹿兒島本線・日豊本線・長崎本線を有し、鹿兒島と久大線の三線であること、九州の一周線をなしてゐること。豊肥本線は中部、久大線は北部、肥薩線は南部の横斷線をなし、豊肥本線の開通は本島全域の交通革命を齎したこと。

3　鐵道地の發達經過　北九州の炭坑地には、筑豊本線及び其の支線が數多分布し、複式的の樹枝狀鐵道をなしてゐること。

二、陸上交通　どんな貨物が何處に分布してゐるかを發表させて、次の指導をなす。

1　位置的關係　九州島は我が國土の尖端に立ち、我が中央日本部の側線にあるから、領海を隔れて欧亞・南の諸大陸へ往くにも、また同じく日本の領海へ乘入れる内外諸船も必ず通過する海路上の門戸で、世界交通の要路に當つてゐること。

2　豊富資源　主な貨物は、北九州に限られ、瀬戸内海の鹿門であり、外國航路の寄港地として重要な位置を占めてゐること。門司に次いで若松・長崎の二港があること、若松港は筑豊炭が支那又は南洋へ發航し、長崎は海路上海・香港方面への發航地であること。

殊に日支連絡で長崎・上海間は優れた連絡の尖端に當つてゐること。

3　中・南九州の地層　中・南九州は北九州の地の利を得てゐるのに反して、概して農業條件に恵まれてゐること。ただ鹿兒島縣は鹿兒島・姶羅盆（大隅）の農業地となつてゐる。

第十二章　作業地理教育の實踐要綱（下）

第一節　中地方・小地方　北海道地方の指導實踐

一　概觀の指導

一、概觀圖　北海道本島は、大部分北緯四十五度以南に位し、歐米文明國と同緯度上に隣接する廣い地域を有し、我が北日本の重心をなしてゐる。

千島列島の占守島東端は、東經百五十六度二十五分で、我が國の極東をなし、同領樺太の北端は北緯五十五度五十六分で、本邦の極北に當る。而して領土の北東部をなす。この位置的關係は地理的に、國防的に重要である。

本島の地勢は、石狩平野と中央低地とを境界として、西部の別領部と南北に縱走するものが、個爲山脈で、之を東西に貫くものが千島大山脈である。此の山脈・大山脈が本島の中央部において十字形に交叉し、本島主要部の地形を自ら國情の大三角に區分してゐる。

されば何處も、此の各三角部の斜面に沿うて統れ、本島の重要地域たる石狩平野を發達させてゐる。平島部は中央低地帶の南西に續き、奥羽地方より來れる鄙頭大山脈あり、大山地帶をなし、今も盛んな大山活動が見られる。故

に地勢の指導には調査部と牛島部の二地帶區に差別せしめて、之を指導單元となすが當然である。

本地方は土地が北國してあるので、氣候が概して寒冷で、降雨も少ない。併し海に漁業の利源を眺し、魚介・海藻の採集業は實に三大漁場の一に數へられ、大小河川の流域には開墾を手掘を作り、地味肥沃、山地には千古斧鉞を入れぬ天然の森林を蔽し、石炭を初め、各種鑛物の埋藏も豊富で、既に北門の寶庫と稱せられて來た。而して之等の富源を基礎として來た本道産業の進歩は、時に一進一退あつたとはいへ、概して長足の進歩を畫したのである。

本島の産物中、工業が最も多く、農産之に次ぎ、水産は第三位で、鑛業・林業・畜産の順序となる。本地方の指導では、産業の發達の經過を明かにすることが最も重要なことで、それが爲には過去との比較も有意義である。

本道の拓殖は益々産業を發達せしめ、また住民の增加を見てゐる。住民の增加は本道の開拓を益々進んならしめてゐる。其の總人口は約三〇六萬（昭和九年十月假計人口）、過去における人口增加を見るに、開道當時、即ち明治二年の內地人の現住人口は僅かに五萬八千餘人であつた。それが明治十九年、北海道廳設置以來、人口及び其の增加率は全に大となり、大正九年の第一回國勢調査には、二三六萬、大正十四年の第二回國勢調査には二五〇萬となり、昭和五年には二八一萬で、開道當時の約六十倍になつてゐる。

併し餘方軒の人口密度は三十二人で、我が內地では密度の最も小なる鹿兒島の六十四人より遙かに少い。今假りに北海道が鹿兒島と同一の密度となるとせば、約四〇〇萬人に近い人口となり、現在よりも約二百萬人を收容し得ることとなる。是れ向年々移民を歡迎する所以である。

北海道本島は、地形上から牛島部と調査部とになることは前述した如くであるが、其の地域においても亦然りで、調査部は更に中央區と東部區に區劃され、次の三區となり、本地方は更に千島列島を千島區となすが適當である。この區分は實際指導との單元として最も適當だと思ふ。

一、牛島區　農耕の適地で、陸地は時作業も適當地帶、海は漁業適區地域である。

二、中央區　開墾當大、夏作及び工藝作物地帶で、本島の文化の中心をなす地域である。

三、東部區　氣候寒冷、特殊な漁場以外は、牧場及び家畜飼育場として生産する地域である。

二、指導計畫　先づ最初に兒童の生活環境を整理し、調査・地理教科書の採用と相俟つて、本地方指導の大綱となし、次に小地域區單元を決定し、小地域區に作業分擔を決定し、作業を實踐し、最後に本地方の總括指導をなす。時間配當及び教材區分は大體次の如くである。

第一時　一、區域　二、兒童の生活環境整理　三、目的決定の指導

第二時　一、地勢を主とする全體性指導　二、小地域區單元の區分

第三時　一、作業分擔の決定　二、作業の計畫

第四・五時　作業の實行

第六・七時　作業の整理

二　指導要綱

【第一時】

一、**教材研究と指導**　強め北海道地方作業のことを指示し、兒童をして、綜合的認識をとらせる。つまり北海道地方作業の目、綜合的などが求められるやうにするのである。

實踐地理の時間には「青さんと此の前に約束したやうに、今日から北海道地方に就いて調べませう。」と指示するのである。

二、**目的決定の問題**

1　**區劃の問題**　北海道地方の地域を讀取らせ、日本全體より眺た位置、郷土より見た位置、郷土から札幌に至る交通路等に就いて發表させ、行政上の区劃を調査させる。――七市十郡支廳のことは、地圖で讀取らす程度でよい。

2　**自然環境の問題**

一、**特殊知識の發表・整理**　北海道地方に關して、兒童の既得知識を發表し、整理する。例へば、きけやます・にしん等の水産物の多いこと、豆類の多いこと、アイヌが住んでいること等、數多の兒童の發表せる事項から、地理作業上必要なことを整理する。

二、**郷土との關係吟味**　例へば北海道の水産物である、さけ・ます・帆立貝等、又豆類、キャベツ等の農産物・パタ・木材等で來てあるものがあれば、それ等を挙げる。また東北地方におけるが如く、郷土人で北海道へ移住した者があれば、それ等の事項、特に交通的關係の密接な地方では、それ等の事項をあげて、郷土との關係を吟味するのである。

三、**地理教科書に依る下調**　地理教科書に就いて、一々その文章を讀んでの下調は困難であるから、綜合の事項だけを讀取らせることとする。地理教科書の綜合參照。

例へば、之等の綜合の整理を通して、北海道にはにしんが豊富であること、木材はパルプとなり、洋紙を出してあること。農業は大農法であること、牧馬が盛んであること等を調べさせる。

四、**圖表の發表と指導**　兒童が地理各附圖から讀取つた諸事項を發表させる。例へば北海道本島はヒラメの如き形をなしてあること、形の方（輪郭）の中央部は高峻であること、海岸に湾入はあるが、小湾入の少ないこと等、而してそれ等發表せる事項中、本地方の作業上、有價値な事項に注意を集めるやうにする。

五、**參考材料の提供**　兒童の地理各附圖は單一的で、各種の分布地圖と部分地圖とを欠くから、參考材料として次の數種の分布地圖を示す。

北海道氣候圖　北海道産業分布地圖　北海道人口・都邑分布地圖

之等の地圖は、兒童の作業品を利用するがよい。私は常に前學年度の兒童が作業したものを利用し、本學年の兒童には、更にそれを改善して作業させてある。

六、**目的決定の問題と指導**　以上の諸予備（準備）を經て、グループ組織として目的決定をなさしめ、重要事項を發見する。例へば其の一例をあげると、次の如くである。

一、地形の特色―半島部と盆地部の地形

二、地勢が氣候・産業・交通に及ぼす影響

三、産業の分布

(1)　農業の特色と農産、氣候との關係
(2)　林業―林野面積が多い
(3)　牧畜業―牧馬の多い理由
(4)　鑛業―石狩炭田と其の他の金鑛國山
(5)　水産業―魚類と豊富な理由
(6)　都邑―主た都邑の分布と其の特色
(7)　小地理區の區分と其の特色

【第二時】

一、地形の概觀

1　（本島）と島嶼部に區分する

2　[illegible]

一、駒岳山脈　　二、千島火山脈と大雪山火山群　　三、石狩川と上川盆地・石狩平野
四、天塩川と天塩平野　　五、十勝川と十勝平野　　六、釧路川と釧路平野
七、根室平野　　八、北見平野　　九、海岸の狀態

3　（本島）

一、函館火山脈と駒岳・羊蹄山　　二、海岸の狀態―別當部の海岸に比して複雜

二、小地理區の設定　グループに分けて、今迄に見學が收得した材料、及び參考材料として氣候圖・産業分布地圖・都邑・人口分布地圖等を活用して、小地理區を設定するのである。其の案は次の如くである。

一、半島區
二、中央區
(1)　石狩平野及び空知地方　　(2)　日高地方　　(3)　上川地方　　(4)　天塩地方
三、東部區
(1)　十勝地方　　(2)　根室・釧路地方　　(3)　北見地方

【第三・四・五時】

一、作業全體の決定　以上に設定した小地理區を作業の單元としてグループの作業課目とたす。
二、作業の決定　作業の分擔が決定すれば、各グループは分擔の地域に就いて作業の目的を決定し、作業の計畫をなすのである。各地域に於て着眼すべき事項は凡そ次の如くである。

1　（本島）

一、本州に最も接近し最も連絡、文化の開けた地域
二、函館市―本道の表玄關
三、駒苫と大沼・小沼―水郷公園
四、余市―にしんの好漁場・平果産地

五、小樽市―商業・貿易都市
六、旭川市―陸軍・日本製鋼所
七、室蘭港
八、函館―函館本線・函館本線・長崎線

2　石狩平野と札幌地方
一、農業―農主商従か、商主農従
二、札幌市―本道政治・経済・教育の中心地
三、月寒種羊場と真駒内牧場
四、江別町―製紙工場
五、苫小牧―製紙工場
六、石狩泉田
七、岩見澤―交通・農産地帯の中心地
八、滝川―交通上
九、函館―函館本線・室蘭本線等

3　釧路地方
一、牧馬地帯―新冠牧場

二、アイヌ部落あり

4　上川盆地
一、農業―夏牧作物（米・ビヤガラ）
二、旭川市―本道内陸の中心都市
三、名寄―名寄盆地の中心地
四、野蒜峠―温泉

5　天塩盆地
一、農業―陸上の生産は不振で、専ら水産業地帯
二、留萌―本地方第一の良港
三、増内―宗谷本線の終点、無的温泉所

6　十勝地方
一、農産地―豆類・甜菜・米・煙草等
二、帯広市―農産物の集散地
三、池田―帯広と紋別間

7　網走・紋別地方
一、農業―牧畜・水産業―（たら・ます・さけ・こんぶ等）

第二節　北海道地方の産業資源

二、釧路市—東部第一の港市

三、落石—無線電信局

四、根室—根室本線の終點

● 北見地方

一、農業—總生產額の約九割までが陸上(農業・畜産・林業・養蠶等)で、本道の木材産出地帯

二、網走—商工都市

三、野付牛—物資集散都邑

四、鐵道—網走線・石北線

五、金産地—鴻舞

● 千島列島

一、千島火山脈の列島

二、產業—漁業が唯一の產業

五、作業の實行　以上に擧げた諸事項に着眼せしめ、之等の景觀を如何にして地圖上に表現せしむべきか—地圖化すべきかを計畫して實行させるのである。

例へば上川盆地の地圖化作業であるならば、大體において、上川盆地地方の地勢圖—北見山脈・千島火山脈・大雪山・石狩岳・十勝岳・夕張山脈・天鹽山脈・石狩川等を入れて作圖し、盆地には米・じやがいも・除蟲菊等の耕作物を記し、農牧・畜産等の事も少くないから、それ等の主要產物を繪畫、又は文字を以て示す。

旭川市は函館本線と宗谷本線の接合點にあり、石北線も通じ、本道交通網の中樞となつてゐるからそれを示す。第七師團司令部があつて、軍事上の要地をなすことは、師團司令部の記號で表はし、人口九萬あることはドット(一點を一萬とする)で、具體化させるのである。

名寄町は名寄盆地の中心をなし、名寄盆地は本島における米作地の北限をなしてゐるから、そのことも示し、米・じやがいも・豆類の產あることも表はす。また名寄線の分岐點であることも圖示するのである。

以上に示したのは、其の一例であるが、かくの如き景觀を地圖化の作業を模造紙になすのが便利である。止むを得なければ、各自のノートでもよいが、併し模造紙の方が爾後の共働作業として好都合である。

【第六・七時】

一、發表と反省　各グループの作業は之を學級に發表せしめ、兒童の質問をなさしめ、教師は地圖化作業品に基づいて指導をなす。

作業者は他兒童の質問、教師の指導に基づいて反省をなす。果して目的決定の如く、計畫の如く、作業が出來たか、否か、果して共働して仕事をしたか、否か等に就いて、

二、產業と交通の大觀的指導　以上の作業が終つてから、教師は產業と交通に關して大觀性指導をなす。其の素材は凡そ次の如くである。

一、工業・農業・水產業は本島の三大產業である。

二、工業は本島産業の約四〇％を占めて、第一位にある。

　繊維工業品―作業・綿織・毛織・セメント・機械・化学・製紙・製糖等

三、農業は本島開発の原動力をなすこと。

　産業農産物―米・麦類・大小豆・綿豆・菜豆・たうもろこし・牧草・蔬菜・果樹・珈琲・茶・ゴム・おいも等

四、牧畜―馬（内地産馬の約三〇％）

五、林業―全国面積の約七〇％は森林地帯である。

六、鉱業―鉱産の種類は多いが、石炭が第二（内地産炭の約三〇％）

七、水産業―豊富周囲に恵まれて、我が国第一の漁業国をなす。

　主な漁獲物―にしん・さけ・ます・かに・帆立貝・いわし・いか・こんぶ等

　主な水産製造物―鰹節（荒ぶしで）・するめ・寒天・にしん・かづのこ（数）・貝殻・貝柱・真珠のます・缶詰のたら・鰯

　のたら等

八、鉄道―南満本線・京奉本線・京漢本線・胶済本線・東清本線・朝鮮本線・朝鮮鉄道

九、海運―内地航路・外国航路・満鮮・小樽・敦賀の三港

十、通信―無線電信局（略称）

第二節　自然科学的地理　人文地理　印度地理作業の指導実例

一　総説の説明

印度は南アジヤに位し、亜熱帯に属する。行政上印度半島及びビルマ・ベルチスタンを併せて印度帝国とし、また南部の一島、セーロン島は英本国の直轄植民地で、印度帝国とは政治的には別の地域である。

併し茲にいふ印度とは、地理的位置の関係からビルマ・ベルチスタンを除いた印度半島とセーロン島を一括してあるものである。

印度はイギリスの領土中重要な地域をなし、農業が主産業をなし、綿・小麦等をはじめとして英本国に供給してあるものが多い。此の点から印度はイギリスの資庫といはれる。

印度は英本国で、未だ工業は発達してゐない。印度の農業は其の自然性の影響である。印度が英本国の資庫といはれることは、英本国との密接な関係を示したものである。

我が国と印度とは通商関係に於て深いものがある。我が国は綿をはじめ鉄等を此の国より輸入し、綿織物・鉄鋼物等を輸出してゐる。我が国よりカルカッタ航路・ボンベー航路が開かれてゐるのもそれが為である。其の貿易高を見るに、日本が彼の国より輸入する方が、日本が彼の国（輸出するよりも遙かに多かつた。然るに最近において

は我が国が輸出する方が増つてゐる（昭和八年、昭和九年）。

故に於いて印度は現在日印協會(昭和八年)と結合し來り、之ボンベイ會議・ラホール會議となり、我邦に於ける輸入問題問題をたすに至つたのである。

されば印度の指導においては、印度の地勢・氣候の特色と、之と密接な關係にある産業に關して指導し、他に關との關係を呼吸するのが主眼である。

二　指導要領

【第一時】

本時の主題

印度の地域と國取らせ、兒童の生活環境と指導し、國旗と相俟つて印度作業の目的決定を指導し、地勢・氣候に關して指導し、其の特色を呼吸する。

一、**教材研究**　「此の次の時間には印度を調べるが、皆さんが印度に關して知つてゐること、注意することがあればそれを考へておいて下さい。」と豫告しておく。――之は我邦の國旗といふ親しみ深いものではない、兒童の興味のにおいて考へられるものを考へて來る態度を養つてゐる。而して地理の時間には本教材と關係する。

二、**教材の價値**

①アジヤ圏における位置　印度國の領土――印度半島、首都はデリー　印度國と人口――行政上印度帝國からビルマとベルチスタンを除いた印度半島とセーロン島

三、**目標決定の價値**

1　生活環境の指導

イ、地理知識の發展　ロ、我が國との關係を呼吸する――勤・勤勞の尊重、勤勞觀・勤勞觀の修得・カルチヤ・ヘイ

勤・ヘンベー・ヘイ勤勞

2　地理研究用　印度地圖「茶園」を「カルカツタ」「國民」「世界における他の國國の比較」「我が國へ輸入される品」

3　國旗發表（印度の全國性）――三角形の地形・印度平野・ヘンジス川・インダス川・デカン高原・クール砂漠・セーロン島及び米・茶・ゴム等の分布、其の他（地圖に表現地圖を指導ナ）

4　グループの共同作業

5　目的決定の發表　（グループの作業を發表し、それを題材として組織する。

6　目的決定の價値

一、印度の地勢の特色――ヒマラヤ山地・印度平野・デカン高原の三區

二、氣候――熱帯性・乾季と雨季とのもがひ、氣候が農業に及ぼす影響

三、農業――主な農産物の分布、農業が第一の産業となすこと、我が國農業と關係する。

四、牧畜――牛・羊

五、鑛産――石炭・鐵鉱

六、工業――カルカツタ・ボンベーの綿紡織・綿織業

七、都邑—カルカッタ・ボンベー・コロンボ
八、貿易—主な貿易品、英本國への輸出品
九、我が國との關係—日印貿易に就いて

四、地理學習の實踐

1　兒童のノートに印度の略地圖を描かせる、教師も黒板に略地圖を描く、略地圖中心で指導する。

2　地勢

一、北部山地—ヒマラヤ山脈　二、印度平野—ガンジス・インダス・ブラマプトラの流域、面積約八〇萬方粁（我が國の二倍）・印度の實質（略圖）人口密度　三、デカン高原—他の主産地。この三地域と兒童のノートに描寫させる。

3　氣候　其の位置から熱帶であることと雨取らせる。平野は暑さがきびしいが、山地は一般に温和である。特色—乾季と雨季に分れることである。

乾季—北東季節風の吹く頃、大體十月から翌年の五月まで、晴天乾燥し、降雨が少ない。

雨季—南西季節風が吹く、六月から十月までで、雨量多く、アッサム地方のチェラプンヂは世界の最多雨地で年間一二、〇〇〇粍の記錄がある。

教師は黒板に乾季と雨季における北東季節風と南西季節風とを説明で示し、それと兒童のノートに描寫させる。

五、農業　各自ノートの地圖化作業の結果をなす。

【第二時】

本時の主眼

印度の地勢・氣候の特色を説明し、之に即して農業の指導となし、農業が印度第一の産業であることを理會せしめ、我が國農業と關係する所を味はし、其の他、牧畜・鹽業・主な都邑・交通に就いて指導し、英國と印度及び我が國と印度との關係を考察する。

一、地勢と氣候の復習　黒板に略圖を描きながら、其の要點即ち地勢の三地區・氣候の乾季と雨季とを復習する。

二、農業の指導

1　農業—住民の約七割が農民である。印度平野が主な農産地、特にガンジス川の流域平野は肥沃。米（世界總産額の七分で第一位）・小麥はガンジス川上流とパンジャブ地方（雨量が少いから）・イギリス本國へ輸出

他は主としてデカン高原、全世界の綿産額の約一六%、既述カルカッタとボンベーに紡績業が起り、産額の約二分の一を國内で消費する、綿織物の約九割はボンベーから。我が國紡工業原料の約三割は印度綿である。

茶の主産地はアッサム地方、ダージリン地方、セーロン島。世界總産高の約三分の二を出す。イギリス及び其の植民地へ輸出する。黄麻はガンジス川とブラマプトラ川の三角洲に多い。製綱材料や麻布にする。主としてアメリカへ輸出する。黄麻工業も年々隆盛となる。さとう會びはガンジス川流域に、其の生産高はキューバと伯仲し世界で一位又は二位。

2　牧畜—牛と綿羊が多い。牛の頭數は一位一千萬頭で世界一。併し食肉としないから畜産としての價値は十分

でない。

3　鉱業—石炭・鉄鉱を除するが、其の他の鉱物は未だ十分でない。

4　工業—ボンベー・カルカッタに綿織業・綿物等が進んになつて來たが、工業は未だ不振。要するに印度は農業國である。

5　貿易—主な輸出品—綿・羊毛・米・麦・小麦・油類・穀物　主な輸入品—綿織物・綿糸類・砂糖・綿織用具等、貿易は英國との關係が密接で、日本・米國・ドイツ・支那の關係がそれに次ぐ。

第、他國との關係

1　カルカッタ—ジュート麻・麦粉の輸出港・我がカルカッタ航路

2　ボンベー—綿の輸出港、我がボンベー航路

3　コロンボ—アジヤとヨーロッパの海上交通の要地、航路航路の寄航地、茶の輸出港

四、我が國との關係

1　歴史上・文化上—佛教は印度に起り、支那・朝鮮を經て我が國に傳來したものであるから、これと同時に佛教・佛教・文學の我が國に傳つたものが少くない。

2　經濟關係　我が國と印度との貿易關係は極めて密接で、我が國は印度より綿を多く輸入し、我が國は其の製品たる綿織物・綿糸を輸出してゐる。要するに我は從より原料品を輸入し、彼へ製造品を輸出してゐる。

印度より日本へ—綿・羊毛・ゴム・油類・米及び麦粉

日本より印度へ—綿織物・綿糸・綿織物・メリヤス・綿織物

印度より我が國へ入るものは、我が國貿易額の約一二%で、我が國より印度へ進るものは我が國貿易額の約一〇%に當る。

印度に於ける我が邦品輸入額調査のことは、他邦の調査で述べたから茲に省略する。我が日本郵船・大阪商船がカルカッタ・ボンベーに定期航路を開いてゐるのも日印貿易の密接な爲である。

五、結論

1　印度の産業分布地圖の地圖化整理をなす。

2　印度と英國、印度と我が國との關係を整理する。

第三節　日印の地理　アメリカ合衆國の地理實際

一　印度の地理

一、自然環境　地理書の記載を見るに、亞細亞科の世界地誌は、時と共大陸とも國單位の下に、個一的に、地誌的に述べてゐるが、之では餘りにも機械的であり、地理に過ぎると思ふのである。尤もアジヤ國だけは我が國との關係が密接である爲か、滿洲・支那・シベリヤ・印度・東南アジヤ（印度支那半島・馬來半島）のやうに、個別單元と地理的單元とが採られてゐるが、これは寧ろ當然といつたがよからう。ヨーロッパ國においても、北米國においても亦然りと信ずる。

第十二時　作業地理教育の問題提出（下）　四〇分

次に、氏地・地勢・気候などは地理的にあつさりと取扱つてもよいし、歴史の知識も教師は大綱的立場に立つて、今個性的教師があつてもよいが、問題地理教育の立場においては、可能の問題を取り扱う問題の出発点とするが、なほ問題作業であると信ずるのである。

従つて北米圏においては、アメリカ合衆国の地理に於る流れを汲み、カナダ・メキシコ・中央アメリカ等と国家に取扱上のはいふまでもない。

二、作業の題材　本作業においては目的性の確立と、問題解とを明確したい。即ち目的決定に当り、児童自らが自己の問題と解明することに注意するのである。翻して共働作業として相互研究に協同作業となし、各グループの作業の結果を発表する時のことなく、各自の作業をば各自のノートに整理させ、教師はそれを指導して行くといふ様な方法、且学習的な学習形式を採るのである。

三、学習順序

第一時　北米圏作業の目的決定の指導

第二・三時　北米圏の地勢及びアメリカ合衆国の概況

第四時　北圏の交通・都市・我が国との関係

第五時　カナダ・メキシコ・中央アメリカ・西印度諸島及び本圏の概況

之によつて、目的決定の指導は第一時の全個性取扱においてなすものであると即ち知悉ひたい。北米圏指導がアメリカ合衆国を中心として行はれねばならぬことは、いふまでもないのであるから、第一時において北米圏作業の目的決定が、同時にアメリカ合衆国の目的決定となるのは当然である。

二　指導過程

一、作業題材と指導　地圏の指導圏の最後において「次の時間から北アメリカ圏の勉強に入るが、何時も皆さんが心得てゐるやうに、今までに皆さんの知つてゐることがら、我々と関係のあることがら、また北アメリカ圏に関係ある問題、例はが色々があれば、それ等を発現しておかうではありませんか。」と予告しておく。

北米圏指導の第一時においては、此の時、皆さんとお約束したやうに、北アメリカ圏に就いて調べます。」といつて、次の仕事に入るのである。

二、導入

1　北アメリカ圏の位置―世界における位置・我が国から測た位置・交通路に就いて発表させる。

「北アメリカ圏といふのはどれだけの範囲ですか、皆さんの地図で其の範囲を軽く鉛筆で指しなさい。それでは北アメリカ圏の位置を決める時に、どのやうに考へたらよいでせうか。」と仕向けるのである。

2面積と人口　面積約二、二〇〇萬方粁、世界第三の大陸と、人口約数一億七千萬のことは、児童の既得材料から発表させる。

3政治区分　「どんな独立国、何所の領土がありますか。」と尋ねて調査させる。

三、作業指導の順序

第三時　アメリカ合衆国の指導要項　四〇分

1　世界材料を要約・整理　「この前約束したやうに、皆さんは此の大陸に就いて、どんなことを知つてゐるか、それに就いて発表して貰ひます。」と言ひる。見出はナイヤガラ瀑布、ロッキー山脈・ミシシッピー川・米国に産業の発達してゐること、フィード自動車・日本人の移住・ロスアンゼルスにオリンピック大会のあつたこと、ニューヨークの高層建築物、パナマ運河などをあげるに新鮮ない。

「今、皆さんから発表されたことで、北米国の作業にそれ関聯のないことはありませんでしたか。」と注意して、材料を整理し、且各児童の注意を喚起するやうになす。

2　生活関係の吟味　これは、世界材料の整理編」と材料が重複する嫌ひはあるが、アメリカ合衆国と我が国との関係の如き、特に其の関係の重大なるものある場合には、一時有意義である。

「アメリカ合衆国と我が国との関係に就いては、どんなことが考へられましたか。」と問いて、其の貿易関係や、日米国際関係の事実と断片的ながら挙げさせる。例へば我が国の生糸が米国に輸出され、綿・油・石油・小麦粉・木材など我々の日常生活品が我が国に来てゐること、日米所聞間に大使が交換されてゐること、軍縮会議では常に安寧が多いことを挙げたらよいであらう。

3　地理学の研究と地理教育の本質　「それでは、次に地理書に就いて調べてみませう。先づ教室に就いて、どんなことがわかるかを考へやうではありませんか。

一、ナイヤガラの滝　世界の大瀑布であることは、教科書の教材と結合をとる。地図で其の位置を調べらせる。

二、合衆国における小麦の収穫　米国には多くの小麦を産し、大農式であることをわからせる。小麦の産出地域

は中央平原中、スペリオル湖の西南であることを指示する。

三、綿の産地　綿の産出の多いことを説はせる。中央平原の南部が綿産地であり、ニューオルリヤンスが綿の集散地であることを知らせる。

四、合衆国の太平洋沿岸から輸出する木材の我　我が国が輸入してゐる所謂米材――米松・米杉・米栂等のことを説明、オレンヂ・桃・梨・柿等の栽培が盛んであることを指示する。それには「合衆国の太平洋沿岸に在住する我が同人の発展」の標題と相関聯して、其の発展を調査ればよい。

六、ニューフォンドランドの漁業におけるたらつり　ニューフォンドランドの位置を地図で調べ、此の漁業は世界三大漁場の一に数へられてゐることは、世界材料を通してわからせ、主な漁獲物は、たらの外にしんであることを知らせる。

七、合衆国の太平洋沿岸の油井　林立せる油の井櫓を直観させ、米国における石油産額の大であることをわからせる。それがロスアンゼルス附近であることを地図で指示する。

八、ニューヨーク　其の位置を地図で調べ、大貿易港で大都市であること、高層建築物のあることを観させる。

九、パンクーバー　其の位置を地図で調べ、シヤトル・サンフランシスコ・ロスアンゼルスと共に太平洋における重要港であることをわからせる。

一〇、サンフランシスコ　前と同じ。

一一、パナマ運河　其の位置と運搬らせ、太門を有する運河であることと發表させればよい。

即するに、之等の解釋の見解を通して、米國は經濟に、政策に、水産業に、鑛業に進んなるものがある。また工業も進んであることを知はせ、大都市、大貿易港あり、太平洋岸ではサンフランシスコ、大西洋岸ではニューヨークが交通・貿易の中心であることをわからせれば足りる。

五、[illegible]と[illegible]　「北アメリカ州の地勢で山地・平野は何所にあるか。」といつて、地圖と讀ませ、「西の山地と東の山地ではどのやうにちがつてゐるか。」とたづねて其の山地の特長を發表させ、其の地勢が西部山地、東部高地、及び中央低地の三區に分れることに着眼させる。

「其の外に北アメリカ州の地圖と讀て、注意しなければならぬといふことはどんなことでせう。」と、兒童の觀上の着眼を發表させてみる。

六、[illegible]の[illegible]　「それでは、今までに調べたことを基として、作業の目當を決定しませう。グループによつて考へませう。」と指示して、グループの活動に移る。然る後（約十分間位）作業題目を發表させ、整理し、決定するものである。作業題目を示せば次表次の如くである。

一、北アメリカ州の地勢の特色――西部山地・中央平原・東部高地に分けて

二、アメリカ合衆國に於いて

(1)　人口の分布と次第の行はれる理由――地勢・氣候との關係

(2)　牧畜・林業・水産業に於いて

(3)　鑛業と工業――工業の發達した理由

(4)　貿易――貿易の發達した理由と日本貿易について

(5)　交通と主な都市――パナマ運河の價値

(6)　我が國と米國との關係

三、カナダの主な産業と都市

四、メキシコの主な産業と都市

五、中央アメリカ・西印度諸島の主な産業（略二時間）

第四節　作業題目　地人題目　アフリカ州地理作業の實踐

一　發達の過程

一、地人題目の發達　アフリカ州は、今日でこそ其の地圖も分明で、領土の境界線は明瞭に地圖上に區劃されてゐるが、凡そ七十年前にあつては、更に內陸の地圖が判明せず、暗黑大陸として殆ど世界人から捨てられてゐたのである。

それには、種々の理由が存在する。地形の高原大陸であることも、砂漠の多いことも、熱帯性の暑しで原始千年であることも、其の大なる理由であるし、気候の熱帯であることも大なる原因である。また住民の低級であることも、本州の文化發達を遅々たらしめてゐるのである。

されば本州文化發達の遅々たる理由を、自然及び人文の関係から研究せしむべく、自然は人文に如何に影響し、人類の生活は自然と如何に関係するかを考察するには、本州は極めて適當な材料といはねばならぬ。

二、地理の意義　本州地理の研究は、綜合した学に、本州の文化發達の遅々たる地理的理由と自然及び人文の関係から考察し、本州における各国の地理としては、エジプト・南阿聯邦の二国に重点を置けばそれでよい。其の他の地方は政治上の区劃を説明せる程度で足りる。

アフリカ州と我が国との関係は、未だ密接でないが、既時亜アフリカ戦線は開かれ、我が海軍・航空隊・人造綿・綿糸の進出あり、其の関係は注目すべきものがあり、エチオピヤ（アビシニア）との通商條約も締結されてゐる。

三、作業目標　アフリカ州全般性の教材から、児童に作業目標を決定せしめ、この作業目標による具體的作業を遂行せしむ。

明、教材研究

第一時　全般性教材と作業目標の決定

第二・三時　児童の意見と教師

二　教材研究

（第二時）

一、教材研究

二、教材の意義

1　位置—赤道の南北各三十五度に跨る熱帯大陸

2　面積・人口—約二、九八〇萬方粁（我国の約三倍）　約一億四千萬人（亜細亜の五分の一）

3　政治関係—エジプト・エチオピヤ・リベリヤ（独立）と他の領土

三、全般的教材の研究

1　地形の特徴と気候—児童は本州に接する熱帯のライオン・象・河馬・ジラフ・動物を挙げるに相違ない。全たエジプトのピラミッド・回教聖地のダイヤモンド・サハラ砂漠・エチオピヤ等のことも。

2　他諸国との関係交通—例へば我が欧州行の汽船はポートサイドに寄港する。南米直接線の汽船はケープタウン其の他へ寄港する。エジプト綿は我が国に輸入され、綿糸・綿織物の材料となる等のこと。

明、地理学の意義—教材の性質

「ナイル川の洪水とピラミッド」—ナイル川を地図で説取らせ、ピラミッドのあるカイロの附近ギゼーを指示する。外にピラミッドやスフィンクスの写真があれば、それを利用する。

「ナイル川とカイロ」―両の位置と併せ利用し、カイロの位置・緯・経子午線の説明に注意させればよい。

「南アフリカ聯邦に於ける就業の特徴」―就業の割合の多いのは、南阿聯邦中の最南部をなすことを指示する。其

金の産額によつては就業の割合が白人の独占になることを附加する。

「スエズ運河」―其の位置を地図で確取らせる。他にスエズ運河の設置からは、併せて説明する。印度洋と大西

洋航路においてアフリカの南端迂回に比して、喜望峰沿岸諸国の手前であることを思はせればよい。

五、[redacted]

兒童の興味を惹起しながら次の質疑をなさせる。例へば地勢が高原性であること、平野が少いこと、地殻変化が単

調であること、マダガスカル島の外は島は少いこと、廣大なサハラ沙漠があること、赤道が中央より南南部を通過

してゐること（これによつて本国の大部分が）、北部と南部は殆も開けてゐること等。

六、作物[redacted]の説明

グループによつて、アフリカ国の作物説明の決定をなすのである。此の時、兒童の前説と関係する様に、参考資

料としてアフリカ国[redacted]説明を用意するがよい。

以上にあげた事例によつて、本国の作物説明を次の如く決定するのである。

一、地勢の有様と特色―大陸西部欧であること

二、気候の特色―熱帯大陸であること、地勢との関係

三、エジプトの面積・人口・産業・都邑について

四、南アフリカ聯邦の政治・面積・人口・産業・都邑について

五、アフリカ国の交通―主な鉄道、主な港について（地勢・気候）

六、スエズ運河―世界交通に及ぼす影響

七、アフリカ国の文化の進み方が遅くて、長く暗黒世界といはれてゐた理由

七、作物の全説

八、作物の目的決定と教授

一、地勢の有様と特色

(1) 大陸西部欧であること、印度洋沿岸の土地が高い―高原大陸

(2) 湖の分布―ビクトリヤ湖

(3) 川―ナイル川・コンゴ川・其の他―全流・滝（の説明と）

(4) 海岸線―単調（凸湾・凹湾）

二、気候の特色

(1) 大部分は熱帯にある―熱帯大陸

(2) 廣大な地域に乾燥民族がある―サハラ沙漠・リビヤ沙漠・カラハリ沙漠

(3) サハラ沙漠―世界第一の大沙漠、面積は本国の約五分の一、北部地域とオアシス

(4) 中部の多雨地（北緯五度以内）―大森林　ナイル川の増水（アビシニヤ高原の雨水）

五、エジプトの面積・人口・産業・都邑について

(1) 面積—約九九萬方粁（我が國の約一・五倍）

(2) 人口—約一、五〇〇萬（人口密度一平方粁人）

(3) 産業

（イ）ナイル川の流域—定期の大氾濫（六月末から十一月末まで）大三角洲・交通運輸の便（下略）

（ロ）農業—綿（エジプトの綿・商品の大部分）・大麥・たうもろこし・蔬菜等

(4) 都邑

（イ）カイロ—アフリカ第一の大都、郊外のギゼーには古代エジプト文化の遺蹟が多い（ピラミッド・スフィンクス）

（ロ）ポートサイド—國際就航の寄港地

六、南アフリカ聯邦の面積・人口・産業・都邑について

(1) イギリスの植民地（自治領）ケープ州・ナタル・オレンジ自由州及びトランスバール州の聯合

(2) 面積・人口　面積約一二〇萬方粁（我が國の約三倍）人口約八萬〇千人（白人七人）

(3) 産業

（イ）南東部は農牧業—小麥・たうもろこし・さとうきび・果實（オレンジ自由州は、南阿の穀倉）

（ロ）内部の草地は羊の牧場、南部には鉱産の創産場—羊の世界的地位、羊毛の供給地

（ハ）鑛業—金（トランスバール州）、産金高の世界における地位、金剛石（ケープ州のキンバーリー）

(4) 都邑　ケープタウン—南阿聯邦の門戸、鐵道の起點

七、アフリカ圖の交通—主な鐵道、主な港に就いて（地勢・氣候・産物）

(1) 鐵道

（イ）鐵道の多い地方—エジプト・南阿聯邦

（ロ）鐵道網—北方アレキサンドリヤと南方ケープタウンに達する全長約九千粁（大部分完成）

（ハ）地勢・氣候と鐵道敷設との關係

(2) 海運

（イ）良港・良灣少ない—地勢・海上交通・産業發達との關係

（ロ）主な港—ポートサイド・ケープタウン、其の他

八、スエズ運河—世界交通に及ぼす影響

(1) スエズ運河—北方ポートサイドより南方スエズに至る全長約百六十粁。途中湖沼を連ねる（ブンザレ・バラー・チムサ・ビラ）

(2) 就航當時の最短航路—倫敦・ロンドン調査經路通り、三二、六五〇粁、約六十五日の航程を三二、四六五粁、五十日に短縮した。

(3) 佛人レセップの計畫—一八六九年（明治二年）開通

九、アフリカ圖の文化—進み方が遲くて、長く暗黑世界といはれてゐた理由

(1)　地帯―高原大陸・海岸部が其例（地帯・上）

(2)　気候―熱帯大陸・亜熱帯地帯―ヤハラ砂漠・カラホリ砂漠（気候・地図上）

(3)　住民の文化が進まない―アフリカ人間は種族の約三分の二を占め、概ね本国のまゝにある。

(4)　経済地帯―本国の文化の進展を妨げる條件となるのは事実である。

以上の諸篇に着眼し（目的検定をなし）、之を地図化・図表化するやうに、各自のノートに計画するのである。

八、作品の実例

【地理上の発見】

一、有史以前の地理　第二時以後は貿易と侵略である。本教材は先に侵略の時代において述べたやうに、教材を自然と人文の関係の綜合関係に見る時には、面白い材料である。従つて作業者は他の作業者と連絡をとることが重要である。例へば、地帯は気候と密接な関係ともつゝものであるから、地帯の作業者は、気候の作業者と連絡を図ること。即ち、之等の作業者は、また地帯・気候の作業者と連絡せねばならぬ。

貿易作業においてもまた然りである。並に作業が有機的として活動が進捗するのである。

二、本国の歴史作業　本国の歴史作業としては、別に之をなさなくても、本国の文化の進み方が解くて、長く時世界史といはれてゐた理由」を地人綜合的として考察すれば、それが自ら本国の歴史作業となることを考へねばならぬ。

第五篇　作品II　に於る南アメリカ洲地理作業の実践

一　緒論の説明

一、調査単元より見た調査単元

地理学では、地学科の世界地理は、昨と今回とも、地理的に、調査単元になつてゐるが（アジヤ洲だけは特別である）、之は誤りに一般的であり、地理的であり、見直に反撃する所が少ないのみならず、我が世界的地位に鑑み、我が国民教育における世界地理としては、よろしく調査単元において指導し、各民族の調査を現合せしめると共に、我が国勢の現合に資せしめねばならぬ。

民族・地帯・気候・産業の分布などは、調査単元で地理的のあつさりした取扱があつてもよいが、国民地理教育の立場において、列国の調査を重んずる国別の取扱をなすがよいと信ずるものであり、従つて本国においては南米のA・B・C国、即ちアルゼンチン・ブラジル・チリ国だけは調査単元で指導せねばならぬ。

二、移民問題は調査の主題である

今や、我が国の人口増加は国を挙げ、年々百萬人に近く、単にこの点からしても、我が国人は海外に移民することの必要を痛感するのである。

南米の天地は言葉の説明をなすべきもの多々あり、既に我が移民の在留する者多く（約三十萬を超えてゐる）、我が移民の活動

の天地が多いから、先づ此に移民せしめることがよい。

ブラジルは其の好適地で、在留邦人が最も多い（昭和九年十月一日の調べでは約十六萬人である訳、現在は二十萬に近い）。然るに開墾された神日の氣分は看過することが出來ず、一九三四年（昭和九年）に至つて、移民問題の憲法を制定せんとするなど、神日氣分はあなどり難く、遂に五月二十四日、憲法審議會本會議で、各國民の一ヶ年の入國數は當該國移民の最近五十ヶ年、ブラジルに定着せる總數の二分を超えることを得ずと規定したのである。

この結果は日本移民は約十分の一に制限されることになり、約三千人足らずのものしか入國が出來ないことになつてしまつた。我が國の移民がブラジル國に入國したのは最近の事であるから、かうした憲法の規定によつて、我の制限を受けることの影響が大である。

之に對して我が外務、拓務當局並びに民間識者においては、それ〳〵善後策研究であり、ブラジル國内にも、「日本移民を入れないことは、ブラジル國開拓の爲に、一大損失である。」といふ意見を抱いてゐる親日家のあることは、注目すべきことで、或は將來において、何とか緩和されるではないかと見る向もあるのである。

三、作業地視察

本案は第三章に既述した以の作業地視察系中の「作業第日を原元とする場合」の視察順序に準ずるものである。

四、視察順序

第一・二時　本國の全體概觀と作業第日の概況

第三時　ブラジル

第四時　アルゼンチン・チリ

第五時　本國の總括

二　視察順序

【第一・二時】

一、視察順序「今日は、此の前の時間に、皆さんと決定したやうに、南アメリカ國に就いて調べます。」

二、區劃の意義

1　地域―世界における位置と面積（約一、九〇〇萬方粁、位置第四の大陸、總面の約二割）

2　政治上の區分―十共和國と一屬領（皆率を通知せる）

三、各國概觀の要點

1　既往知識の復習と整理―ブラジル・コーヒー・アンダス山脈・チリ硝石其の他のこと

2　我が國との關係―南米に行く我が移民・コーヒー・チリ硝石の輸入等

四、地理書の活用―鉛筆の使用法

「アマゾン川の流域の密林」―アマゾン川の位置と密林の狀態に注意させる。

「南米に於ける我が國人の村」―我が國人の最も多いサンパウロ州附近のことを注意し、其の位置を地圖で調べさせる。次の解説といつしよに聞きさせる。

「コーヒーの實」―實物があれば、之を示し（皆コーヒーを見せよ）、またコーヒー關係大の寫眞・繪畫があれば、それを示

寸とよい。

「コーヒーの牧園」―南米に於ける我が移入の村」と併せ觀るやうにする。巡々と連なるコーヒー園に注意させる。

「サントス港に於けるコーヒーの積出し」―コーヒーに關する前の學習と併せ觀るやうにする。サントス港の位置を確認させ、コーヒーを運ぶ汽船をた寸狀に注意させる。

「ブエノスアイレス港に於ける輸出小麦の倉庫」―ブエノスアイレス港の位置を確認させ、小麦がアルゼンチンの主要輸出品であることを注意する。

「アルゼンチンの羊毛の市場」―アルゼンチンの牧畜の盛況があれば共に示すがよい。牧畜がアルゼンチンの主要産業であることを注意すればよい。

「リオデジャネーロ」―其の位置と地圖で調べさせる。港内の出入、船狀の一樣でない點に注意させる。港内は自然の防波堤であることを一寸附加してよい。

三、[illegible]人の生活

地理科用地理資料圖は、殆ど用を成さないから、高等科地理資料圖を利用する。

1―山地（アンダス山脈、アラリル山地）・川（アマゾン川、ラプラタ川）と平野・植物の分布・氣候圖（赤道・南回帰線は何故を通つて居るか、熱帶・溫帶の分布）と調べらせる。

2―地帶―西部山地・東部山地・中部平原の三區分に注意させる。

六、地帶・[illegible]の[illegible]

1　地帶

（イ）西部山地―アンダス山脈（ロッキー山系の一部）と大大山脈（アロンカグア山は南半球の一の高山―七〇〇〇米）

（ロ）東部山地―アマゾン川によつて二分され、北方にギヤナ高地（海拔四二〇米）中部にブラジル高地（海拔七〇〇米）がある。

（ハ）中部平野―オリノコ川と我城平野（ラプラタ）・アマゾン川と我城平野（パルム）・ラプラタ川と我城平野（パンパス）

2　氣候

（イ）大部分は熱帶―本洲の約四分の三

（ロ）土地の高低による―北部の低地（熱帶）アンダス山地（溫帶）

（ハ）東部と西部―東部（アラリル海による）は西部（海―東部）より氣溫が高い。

（ニ）降雨の分布

アマゾン川我城―南米の赤道（年二千粍を超える）でルーの海岸地方・チリの北部・本洲地帶（カラバカ・ア）

（ホ）地帶と氣候との關係―アンダス山地における都市の發達

七、作業[illegible]決定の[illegible]

1―グループの活動　グループによつて、南アメリカ洲の主なる國―ブラジル・アルゼンチン・チリ國の目的決定をなす。

2　目的決定の標準　一グループの研究發表を原案として、次の作業題目の決定をなす。

一、ブラジル

(1) 面積・人口・地勢・氣候—我が國と比較して

(2) 産業—特に農業に就いて、また日本移民の活動狀況（ポーロ・ヒー・ロ・ヒー國の作業）

(3) 主な都邑—リオデジャネーロ・サンパウロ・サントス等

(4) 我が國とブラジル國の關係

二、アルゼンチン

(1) 面積・人口・地勢・氣候—我が國と比較して

(2) 産業—特に農業と牧畜に就いて

(3) 我國との關係

三、チリ

(1) 面積・人口・地勢・氣候—我が國と比較して

(2) 産業—特に鑛業に就いて

(3) 我が國との關係

四、南アメリカ諸國の交通—アンデス山脈が交通に及ぼす影響、主なる陸と航路

八、作業大綱の決定

前記の作業項目によつて、作業の分擔を決定するのであるが、更に、南米諸國の地勢圖及び氣候圖を作成する分擔も決定する。

九、作業の目的決定と計畫

【ブラジル國】

一、面積・人口・地勢・氣候—我が國と比較して

(1) 面積—約八五〇萬方粁（我が國の約十二倍半）

(2) 人口—約四千萬（我が國の約三分の一より少ない）・人口密度一方粁五人（我が國二百人）

(3) 地勢

(イ) ブラジル高原

(ロ) アマゾン川と其の流域—セルバス（熱帶）

(4) 氣候

(イ) アマゾン川流域—赤道直下、雨量二、五〇〇粍に達する

(ロ) ブラジル高地—熱帶國であるが氣候適當

(ハ) 氣候は我が國と相反すること

二、産業—特に農業に就いて、また日本移民の活動狀況（ポーロ・ヒー・ロ・ヒー國の作業）

(1) ブラジル高地の農業—コーヒー栽培、世界總産額の約七割五分

(2) コーヒー園の邦人の活動—現在の移民

(3) コーヒーの輸出—サントス・リオデジャネーロ
(4) 其の他の農業—米・綿・ココア・ゴム等
(5) ブラジル高地の鑛業—鐵・金剛石

三、主な都邑について
(1) リオデジャネーロ—首府・南米第二の大都・自然の良港・コーヒーの輸出港・我が大使館
(2) サンパウロ—コーヒーの大市場・附近に邦人の在留者が多い。
(3) サントス—コーヒーの輸出港、我が移民の上陸地

四、我が國とブラジルとの關係
(1) 移民
（イ）コーヒー園の作業　（ロ）移民制限後における今日の状態
(2) 政治・外交上—大使館
(3) 通商
（イ）[illegible]—南米[illegible]　（ロ）貿易はまだ盛んでない

【アルゼンチン】
一、面積・人口・地勢・氣候—我が國と比較して
(1) 面積—約二八〇萬方粁（我が國の[illegible]）

(2) 人口—約一、二〇〇萬（我が國の約八分の一）・人口密度四人
(3) 地勢・氣候
（イ）西部山地—アンデス山脈
（ロ）北部平野—ラプラタ川の流域（グランチャコ・森林地帯）
（ハ）南部平野—ラプラタ川流域（パンパスの一部・大草原）
（ニ）北部—溫和　南部—寒冷

二、産業—特に農業と牧畜
(1) 農業
（イ）主な農業地—パンパス
（ロ）主な農産物—小麥・たうもろこし・亞麻等
（ハ）小麥の産額と輸出—ブエノスアイレス港・ラプラタ港
（ニ）グランチャコ地方も漸次農業化されて行く
(2) 牧畜
（イ）主な牧畜地—パンパスの大草原とパタゴニヤの荒地
（ロ）種類—羊・牛・豚・山羊
（ハ）羊・牛の世界的地位

（ロ）　穀倉の中心―ブエノスアイレス

五、我が國との關係

（1）　アルゼンチンの在留日本人（約六千人）―農・牧畜に從事す

（2）　通商

（イ）　南米東岸航路の終點―ブエノスアイレス

（ロ）　貿易―現在は多からず

【チリ】

一、面積・人口・地勢・氣候―我が國と比較して

（1）　面積―約七〇萬方粁（我が國より約四割方小）・世界における領土の順（第四位から第四位まで）

（2）　人口―約四三五萬　人口密度六人

（3）　地勢・氣候

（イ）　アンデス山脈の西斜面―山岳高原・火山脈・地震帯

（ロ）　北部―熱帯・高原地帯（タラパカ砂漠・アタカマ砂漠）

（ハ）　中部―溫和・降雨地帯

（ニ）　南部―氣溫低い・雨量に富む

二、産業―特に鑛業に就いて

（3）　北部鑛業地帯

（イ）　硝石地帯―硝石の利用

（ロ）　銅―世界における銅産の地位

（ハ）　其の他―銀・石炭

（2）　中部農牧地帯（南緯三十三度から四十三度にわたる地域）

（イ）　農産―小麦・馬鈴・たうもろこし・とやがいも等

（ロ）　牧畜―牛・羊等

（3）　南部農・林・漁業地帯（南緯四十三度以南）

五、我が國との關係

（1）　チリの日本人（約七百人）

（2）　通商上

（イ）　南米西岸航路の終點（バルパライソ）

（ロ）　硝石の輸入

一〇、作業の實行

【實際上の注意】

一、發表と結論　第三時以後はグループの作業發表を主體として、進行するのである。

二、総括の指導　最後の纏めにおいては総括するのであるが、此の際には南米諸国と我が国との関係、並に邦人移民の政策に注意するがよい。

1　地人相関的考察　アンデス山脈が南米洲の地勢・気候・交通に如何なる影響を與へてゐるかを調べるがよい。

2　我が国との関係　南米諸国と我が国との関係は、主として移民上の関係であるが、之は南米諸国の産業と関係するのであるから、総括においては、産業の特徴を明かにし、我が国との関係を吟味するのである。ペルーには我が邦人の在留する者が多いのであるが（約二萬二千人、ブラジルに次ぐ）、同国にも排日気分が漸次に現はれ、南部においては、日本人を採用しないといふ決議さへなされてゐる。

昭和十年九月廿日　印刷納本
昭和十年九月廿五日　初版發行

［作業地理教育法］　定價金貳圓五十錢

著作者　齋藤英夫
發行者　朝倉鑛造　東京市神田區[illegible]町二丁目[illegible]番地
印刷者　小笠原秀雄　東京市神田區[illegible]町三丁目二六番地
製本者　中島[illegible]
大賣捌所　[illegible]
發行所　東京市神田區神保町一丁目五十五番地　賢文館　振替東京五〇八一番　電話神田四九七番

（[illegible]）

東京帝國大學教授 文學博士 井上哲次郎 著

日本國民史 (全二冊)

上卷(原始時代 奈良時代)
中卷(一冊 平安時代)
下卷(一冊 鎌倉 室町 安土桃山 徳川時代)

上卷・約四百頁・定價四圓五拾錢・郵稅拾錢
下卷・約五百頁・定價四圓・郵稅拾錢

著人は國史を呼吟味して國體の發展と國民性の發揚性を闡明すべき時に例證した。著者は國民精神の作興を國民教育の基調として各時代の生活圖繪を說明な研究資料より創出し或は西洋史と比較對照しつゝ我の日本國民史を時代より、國體發揚の創立基調明瞭く系統的に述べたものである。

本書の特色

國民の本質、國民性の本質を呼吟味し、國民文化の全體系を闡明せしめ、又しも日本精神を樹立せんと勉めしこと。

著者の研究は國史を中心として、東西に通じ或は比れを比較し、或は貴重な資料によつて實證、從國民文化の卓越せる論を明瞭多く論證せること。

世界には著者獨自の研究たる世界に於ける世界史觀の發達より、國史學の本質を述べ歷史教育の本質と方法を明かにせる學文學史研究にも貴重の書である。

東京帝國大學教授 文學博士 大久保利謙 著

國史教育の新機構

定價二圓二拾錢・郵稅拾錢

『日本精神の國民的自覺に基く國史』

著者は先輩ある國史の教育に基づし、教育的よりも思想的實來を重んじ、それに即する全體觀の構成をなし、日本精神を闡明する國史教育の新機構を樹立した。著者の說き史觀と國體せる思考はその貴重な資料と相俟つて創造せる現代國史教育の決定版である。

東京帝國大學教授 文學博士 中村直勝 著

天皇と國史の進展

定價二圓五拾錢・郵稅拾錢

我が國史が世界に驚嘆する所以は常に天皇が國民基盤・文化を統制し給ひ、國民のリーダーとなられ、國史の行方を決定された点に存する。著者は宇多・後醍醐・後白河・後鳥羽の四天皇が時の國體に際して如何に修成し給ひしかを說ねて、今日の國體解決の鍵とせんとするものである。

國學院大學教授 文學博士 佐々木清治 著

圖說日本地理 (全三冊)

上卷(一冊 東京 關東)・序說、千島、樺太、北海道、東北、關東
中卷(一冊 關西)・南方諸島、中部、近畿、中國、四國、九州
下卷(一冊)・琉球、臺灣、朝鮮、滿洲、關東州、南洋

日本地理を新視角より見直し精選せる四百數拾の寫眞を以つて全三冊千餘頁に亘り從來の地誌を根本的に革新せる新日本地理を系統樹成す。

本書は從來の地誌とは全く異り。斯界の權威たる著者が、人文的に闡明せんとする意圖」を勉めてゆく意圖として新日本地理を明瞭く新組織せるものである。

國學院大學教授 文學博士 佐々木清治 著

郷土地理教育の原理と方法

定價二圓八拾錢・郵稅拾錢

本書は郷土研究の權威として既に今名ある著者が、地文人文の相關關係を、「郷土地理」の組織の基礎としてその本質を明かにし、郷土教育として郷土を地理学的にしてゆく我の郷土地理教育の指導原理を説いて、具體的な教授法を紹介し、進んで郷土地理研究法を詳說してその組織を示したもので何人も必讀すべき教育の一大傑作である。

東京高等師範學校教授 北川若松 著

實驗理科教育

定價一圓八拾錢・郵稅拾錢

子供の生活內容こそは中核で科學的生活に出發さるべき「科學以前の生活」なのである。故に「此の科學以前の子供の實驗的生活に反省を加へさせることによつて子供の科學的心性を開發し子供の生活の上に子供の科學を育成成させて行く」これが著者の信ずる實驗理科教育の本質である。……(略)

主一、理科教育の歷史的概觀
二、物理的教材の組織と指導
三、理科教育の新展開
四、物理的教材の實驗指導
日、實驗理科教育の本質
五、生物教材の組織と實驗指導
六、實驗理科教育の本質
七、實驗と科學
八、生物教材の特質と實驗指導
九、實驗と科學
十、生物教材の特質と實驗指導

廣島高師附屬訓導 岡原吉雄 著

學校 學級 實踐訓育法

[illegible]定價[illegible]送料十八錢

現代實踐教育の行詰を招來した最大の原因は果して何ぞ。教室内のみでの訓練主義に執し、兒童生活の實際指導に目覺めぬところに大きな缺陷が存在してゐた。訓練とは訓育であり努力であり實踐である。[illegible]を獲得させるには單なる机上の訓練による[illegible]の強化だけでは片手落である。廣く實踐訓育にまで[illegible]してこそ眞の[illegible]教育である。

此の[illegible]から、著者は[illegible]教育を[illegible]せよ 生活[illegible]の實踐訓育を[illegible]せよのスローガンの下に、

一、教育科學と教育實踐　二、實踐訓育の[illegible]　三、武士道的精神への訓育　四、時代精神と學級訓育　五、學級の訓育精神と實踐　六、實踐訓育上の愛と權威　七、學級の實踐訓育　八、今々の實踐訓育　九、農村子弟と實踐訓育　十、現實の[illegible]

の十章に亘つて細大となく論述したのが本書である。その大部にして[illegible]なる見解は正に現下に於ける[illegible]教育[illegible]の一大福音である。

高木佐加枝・[illegible]實雄 共著

高等小學 算術教育の精神と新指導法（全二冊）

[illegible]送料十八錢

本書の特色

一、高等小學算術教育の精神を明かにしたこと
二、[illegible]を示したこと
三、[illegible]したこと
四、[illegible]したこと
五、[illegible]したこと
六、[illegible]を示したこと
七、[illegible]を示す
八、[illegible]
九、[illegible]に供す

堀之内恒夫 著

現代 修身教育の根本的省察

[illegible]送料十八錢

本書は混沌せる現代修身教育をその本質に照して明快に省察し、その[illegible]を示し實踐家の據るべき根本原理を確立せるもの。特に[illegible]となれる[illegible]と修身科の[illegible]の問題を解決せる實際家必讀の名著である。

一、生活[illegible]の[illegible]向とその[illegible]
二、郷土[illegible]の[illegible]向とその[illegible]
三、[illegible]の[illegible]向とその[illegible]
四、社會的全一的[illegible]向とその[illegible]
五、公民的[illegible]の[illegible]とその[illegible]
六、[illegible]問題とその[illegible]
七、[illegible]の[illegible]方向とその[illegible]
八、修身教育の力の生ずる[illegible]

廣島高師附屬訓導 中野[illegible]一 著

生活算術の實踐原理

[illegible]送料十八錢

特に本書を推奨す

◎生活算術の根本精神を知らんとする人々に
◎生活算術を特に實踐せんとする人々に
◎生活算術の實際[illegible]上[illegible]を得てる人々に
◎算術教育の本道を求める正しき人々に

◎內容大綱

第一章　現代[illegible]の[illegible]―作業中心主義の算術教育―[illegible]郷土算術―[illegible]の算術教育
第二章　[illegible]―二種の生活觀―生物學的生命觀―[illegible]主義の「生活」觀―眞の生活指導の教育
第三章　[illegible]―生活の全一性と生活指導の算術教育―生活算術の具體性―生活算術の全一性―生活算術の實踐性―生活算術の創造性―生活算術の價値實現性―生活算術の社會性
第四章　[illegible]の目的觀―兒童中心主義算術の目的觀―[illegible]主義算術の目的觀―[illegible]
第五章　[illegible]―國定算術書體系―事實[illegible]中心主義の[illegible]體系―生活算術の[illegible]
第六章　[illegible]―[illegible]を實現させる算術―數量の測定・調査計算の算術―[illegible]生活を營成する算術―事實を[illegible]の算術―[illegible]に關する生活を指導する算術

東京女子高等師範 岩下吉衛 著

新時代の珠算教育 全一冊

[illegible]送料十四錢

▼[illegible]を以て甲乙[illegible]の[illegible]を比較[illegible]せる[illegible]

上篇＝珠算書の研究
文部省珠算書の甲乙兩種の教材を左右に比較對照しつゝ[illegible]の全基本問題を[illegible]の算術[illegible]に依り解説せる實際的である。

下篇＝珠算書の活用法
[illegible]活用法を說き珠算[illegible]指導の實際を述べたる指導書である。之れに依て教科書の使命は完全に[illegible]され實際家の行くべき道は確立する

廣島高師附屬訓導 中野[illegible]一 著

生活指導 算術教育原論

[illegible]送料十八錢

從來の如き計算過重主義や徒らに複雜な[illegible]問題主義等の過去に於ける一切の舊算術教育を打破して新たに兒童生活を基調とした算術教育の原理書であり、實際書である。或は生活事實中に數理を發見せしめ或は郷土[illegible]の[illegible]の算術を發見せしめる等二十五章に亘つて論じ[illegible]の根本的改新を呼び起し小學校六年間の實際指導書を示せる[illegible]の名著である。

[illegible]　堂東傳著

最新理科教授法

[illegible]

◎[illegible]の[illegible]の要求
◎[illegible]理科教育の[illegible]
◎[illegible]日本の[illegible]

目的論・教材論・方法論・[illegible]代理科教育の全局面を[illegible]系統的に論叙す

現[illegible]せる現代理科教育をその本質に[illegible]して明快に[illegible]し、その[illegible]を示す。

従来のクラシカルな教授法を捨てて、[illegible]な教育内容に一大[illegible]を加へて[illegible]日本の理科教育の[illegible]を明示す。

◇全篇要目◇

第一章　理科教育[illegible]の[illegible]、第一節　理科教育の分野目的として研究さるべき事項、第二節[illegible]第一節[illegible]一般教育[illegible]第二節[illegible]第三節[illegible]理科教育[illegible]すべき[illegible]第六章[illegible]第一節　日本[illegible]第二節[illegible]第三節[illegible]第一節[illegible]第二節[illegible]第三章[illegible]

研究本位の理科教育　[illegible]　七蔵著

[illegible]

本書は理科教育に於いて實際の[illegible]たる著者が多年の研究と實驗なる[illegible]を[illegible]して成れる[illegible]理科教育の決定版である。著者は専ら兒童の内から研究をと[illegible]し兒童の[illegible]を主眼として[illegible]の上に如何に[illegible]かすかを[illegible]いたものである。

第一　理科教育の[illegible]本原則
第二　[illegible]教材の研究
第三　[illegible]教材の研究
第四　[illegible]教材の研究
第五　[illegible]教材の研究
第六　天文[illegible]教材の研究
第七　地質[illegible]教材の研究
第八　[illegible]教材の研究
第九　理科の[illegible]

[illegible]　堂東傳著

理科實驗の原理と方法

[illegible]

本書は理科の生命である實驗を[illegible]に自然科學研究の立場と兒童の[illegible]の立場より[illegible]系統的に纏めたもの。先づ全篇を原理と方法に大別し原理篇に於て實驗の[illegible]、[illegible]及び[illegible]を[illegible]に亘つて評說し、方法篇に於て一般的方法、特殊的方法に就て[illegible]の見地より具體的に解說し、[illegible]家の[illegible]により[illegible]理科實驗[illegible]を[illegible]してある。

[illegible]・山崎[illegible]著

更生農村教育

[illegible]

全十章五十節よりなる[illegible]の大名著[illegible]本書は日本全國を行脚して農民を[illegible]し、農村を救ひ、農村教育に[illegible]すること三十有余年その[illegible]と力とが一丸となり生れ出でたものが本書である。即ち[illegible]は農村教育不振の原因を[illegible]し、[illegible]に於て[illegible]る[illegible]への方策を[illegible]し、全國の[illegible]の[illegible]と、[illegible]なる[illegible]が[illegible]して、何人とも更生農村教育の[illegible]に[illegible]せねばならぬのであらう。

全篇目次

緒言　[illegible]農村教育の[illegible]
前篇　農村教育の現狀と農村に及せる影響
第一章　[illegible]める農村
第二章　[illegible]へる農民
第三章　農村教育の[illegible]
第四章　農村教育に關する[illegible]と[illegible]
後篇　農村教育の[illegible]と[illegible]
第五章　農村の教育[illegible]と[illegible]
第六章　農村教育の[illegible]
第七章　農村學校の[illegible]の實例
第八章　農村教育者の[illegible]
第九章　農民の教育[illegible]
第十章　[illegible]の[illegible]
結論　農村[illegible]の[illegible]

[illegible]　青木誠四郎著

個性調査の原理と方法

[illegible]

從來學者の書いた個性調査法は[illegible]になつて、餘りに[illegible]であつた。そこで實際家が[illegible]ふ事が[illegible]るものを學問的な見地から[illegible]づけて考へたものが本書である。一般調査の方法を[illegible]して之が[illegible]の上に[illegible]の上に如何に[illegible]を考へたものである。[illegible]に本書は今日學校で行はねばならぬ[illegible]を個性調査として如何に[illegible]すべきかについて多年[illegible]の結果の[illegible]による實際[illegible]を[illegible]して居る。

大阪[illegible]　大伴茂著

個性を生かす教育

[illegible]

本書は「[illegible]」の[illegible]として[illegible]ある著者が[illegible]に「個性を生かす教育」を[illegible]するものである。第一篇は[illegible]の[illegible]な[illegible]を[illegible]して、何人にも[illegible]に[illegible]し得る様に教育[illegible]の目的・[illegible]・方法を[illegible]で[illegible]す[illegible]なく、第二篇は[illegible]の[illegible]一[illegible]の[illegible]しむべき[illegible]を[illegible]し、第三篇で[illegible]な[illegible]と[illegible]大な[illegible]とを持つて「[illegible]に[illegible]する[illegible]教育の[illegible]」を[illegible]して、[illegible]教育の[illegible]を示し、第四篇は[illegible]の[illegible]を[illegible]べて[illegible]の[illegible]の如何に[illegible]しきかを[illegible]して[illegible]とする。

賢文館發行書目

生活手工教材と其實踐

大竹拙三著

[illegible]

實際手工教育界の最高權威者たる著者が獨創の新教材一〇〇を此處に整備し、そのすべてに適切な創作の過程と、或ひは實際經驗に於ける明快な指導法を加へたるもの、材料・紙・竹工・木工・金工等すべてを網羅し、併せて生活手工教育の全貌を明かにせる必讀の名著。

新しみがある、新しい[illegible]そしてすぐ子供に[illegible]へたい教材一〇〇[illegible]へて[illegible]いて[illegible]

▶内容紋標◀

[illegible]

形象圖畫教育の新機構

大竹拙三著

[illegible]

一 [illegible] 現代圖畫教育の缺陥を說き、現代繪畫の動向を明かにし、形象圖畫教育を解明す。

二 [illegible] 寫生・想畫・時間・教科書の取扱より鑑賞・工作・[illegible]の指導法を說く。

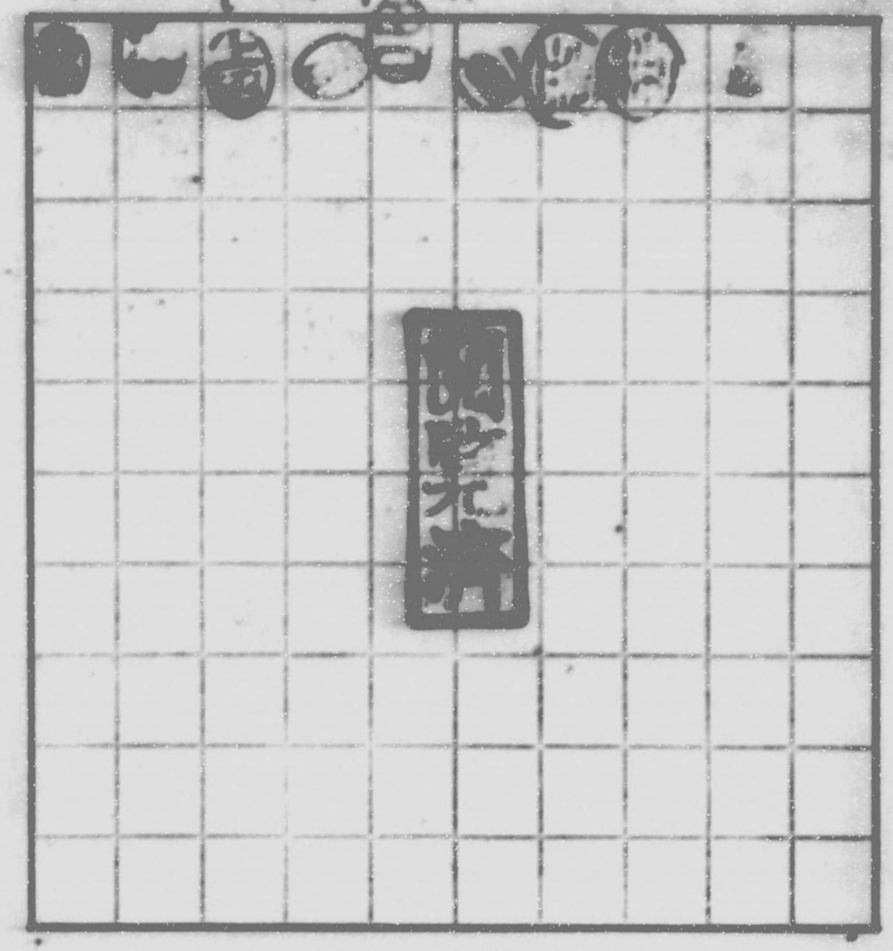
三 [illegible] 教材選擇の要件、[illegible]・クレヨン・水彩・油畫の各指導[illegible]を解明。

[illegible] 各學年の教材[illegible]を[illegible]し、[illegible]一より高二までの教材[illegible]を[illegible]す。

手工指導系統案と其實踐

三苫正雄著

[illegible]

手工教育の健全なる發達と學習指導の上から、科學的に統一ある指導系統の必要は缺くべからざるものとなった。本著は[illegible]研究と實驗的な指導とに依り、その各學年に[illegible]を[illegible]し、之れを基礎とし、[illegible]年より高等二年に至る各學年の指導に就き、[illegible]、[illegible]に[illegible]して[illegible]を[illegible]し、[illegible]に[illegible]入してあるから全學年の指導書を[illegible]て[illegible]利である。

104 10月12日